

文部科学省 大学生の就業力育成支援事業

自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム

社会における確かな「居場所と出番」を見つける力を培うキャリア教育

平成22・23年度 成果報告書



徳島大学

The University of Tokushima

ご挨拶

文部科学省が平成 22 年度に募集した「大学生の就業力育成支援事業」(就業力 GP) には、徳島大学が申請した「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」をはじめ、申請があった全国の国公私立大学・短期大学 441 件の中から 180 件の取組(共同申請を含む)が選定されました。

徳島大学が推進する「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」は、総合科学部・工学部が共同で取り組む就業力育成支援プログラムで、総合科学部・工学部の学生が入学時から卒業時に至る 4 年間に実施されるキャリア学習プログラムです。

徳島大学の教育目標は、優れた専門的能力と、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう、進取の気風を身につけた人材の育成に努めることにあります。そこで、本取組では、①Web 版ポートフォリオの活用、②キャリアデザイン伝承システムの実践、③就業力評価アンケートによる事後評価などの諸取組を通じて、学生の主体的な学習を促し、社会的・職業的自立に向けた就業力を育成することにあります。

平成 20 年(2008) 9 月のリーマンショックや平成 23 年 3 月の東日本大震災などにより、景気は低迷を続け、大学生の就職環境にも厳しいものがあります。こうした中で、平成 23 年 4 月より大学設置基準が改正され、大学には、「当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うこと」が求められることになりました。本学が取り組む「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」は、まさにこうした指針に合致したプログラムといえます。

本報告書は、平成 22 年度および 23 年度に徳島大学が取り組んだ「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」の成果報告書です。「大学生の就業力育成支援事業」(就業力 GP) 自体は平成 23 年度で終了しますが、「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」については受講生や外部評価委員会からも高い評価を受けており、徳島大学では引き続き本プログラムを継続実施していくとともに、適宜見直しを図りながら、キャリア教育を推進していく所存です。

本プログラムの推進にあたっては、企業・自治体・関係機関・関係者の皆様からも多大なご協力をいただいているところでありますが、今後とも引き続きご理解、ご協力を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

平成 24 年 3 月

取組代表／副学長(教育担当理事)

和田 眞

文部科学省 大学生の就業力育成支援事業
徳島大学「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」
平成22・23年度 成果報告書

目次

ご挨拶

目次

第Ⅰ部 文部科学省 平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」徳島大学申請書	1
平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」申請書	3
第Ⅱ部 平成22年度「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」の取組内容	15
1 平成22年度大学改革推進等補助金(大学生の就業力育成支援事業)調書	17
2 就職支援センターならびにキャリア教育推進室の開設	19
3 「キャリア教育の充実」に係るアンケートの実施と結果	20
1) アンケート依頼状(実施の趣旨)	
2) アンケート結果 全体集計(全職種合計)	
3) アンケート結果の概要	
4 キャリア学習ポートフォリオシステムの構築と利用法	25
1) キャリア学習ポートフォリオシステムの構築と運用法	
2) キャリア学習ポートフォリオシステム 利用の手引き	
3) 学習ポートフォリオの意味と主旨	
5 「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」HPの紹介	28
6 進路・就職活動・キャリア教育に関するアンケート調査結果【総合科学部】	29
7 平成22年度事業外部評価委員会報告	31
第Ⅲ部 平成23年度「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」の取組内容	33
1 平成23年度大学改革推進等補助金(大学生の就業力育成支援事業)調書	35
2 平成23年度開講科目の紹介	37
1) 前期 総合科学部「キャリアプラン入門Ⅰ」	
2) 前期 工学部「キャリアプラン入門Ⅰ」	
3) 後期 総合科学部「キャリアプラン入門Ⅱ」	
4) 後期 工学部「キャリアプラン入門Ⅱ」	
5) 後期 総合科学部「情報と職業」	
3 「巣立ちプログラム」授業評価アンケート結果	47
4 第1回就業力育成シンポジウム報告	50
1) 就業力育成シンポジウムの開催目的	
2) 実施要領	
3) シンポジウム風景	
4) 参加者アンケート	
5) 講演資料概要	
6) シンポジウム総括	
5 平成23年度事業外部評価委員会報告	57
6 総合科学部「渭水会会報」第40号記事	59
7 平成23年度中国・四国工学教育協会 基調講演	60
学生による就職支援組織の活動紹介, 推進スタッフ紹介, 奥付	62

第 I 部

文部科学省 平成 22 年度「大学生の就業力育成支援事業」

徳島大学申請書

(様式1)

整理番号	1	—	1	6	1	0	1
------	---	---	---	---	---	---	---

平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」申請書（様式）

設置形態	<input type="radio"/> 1. 国立	<input type="radio"/> 2. 公立	<input type="radio"/> 3. 私立
大学名	徳島大学		
本部所在地	〒770-8501 徳島市新蔵町2丁目24番地		
設置者名	国立大学法人徳島大学		
学長名	香川 征		

取組学部等	総合科学部・工学部
取組名称 (全角20字以内)	自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム 社会における確かな「居場所と出番」を見つける力を培うキャリア教育
キーワード (5つ以内)	居場所と出番, 巣立ちプログラム, web版ポートフォリオ, キャリアデザイン伝承システム, 就業力評価アンケート

単独・共同の別	<input type="radio"/> 1. 単独申請	<input type="radio"/> 2. 共同申請
(共同申請の場合) 共同で行う 大学・学部名		

ふりがな	わだ まこと	所属部署名 及び職名	副学長（教育担当理事）
取組担当者	和田 眞		
勤務地	〒770-8501 徳島市新蔵町2丁目24番地		
電話番号	(勤務先)	(自宅・携帯電話等)	FAX番号
e-mailアドレス			

ふりがな	いずがわ たかとみ	所属部署名 及び職名	学務部教育支援課長
事務担当者	出川 隆富		
勤務地	〒770-8502 徳島市南常三島1丁目1番地		
電話番号	(勤務先)	(自宅・携帯電話等)	FAX番号
e-mailアドレス			

取組の概要【1 ページ以内】

I. 徳島大学における学生の実態と本取組の必要性

近年、本学における大学生の就業先（業種・職種）は多様化する傾向にあり、『学生の学習に関する実態調査報告書』（徳島大学）によれば、総合科学部の文系で51%、理系で39%、工学部（7学科）でも33～42%の学生が将来に不安を感じている（医・歯・薬学部は5～16%）。これは学生が将来に対する明確な職業観やキャリアデザインが描けていないこと、すなわち、社会に出たときの自らの「居場所と出番」がイメージできていないためでもある。そうした学生は就職活動へのモチベーションや就業先に対する満足度が低く、中には早期転職するケースもみられる。学生が将来、社会における自らの確かな「居場所と出番」を獲得するためには、大学において「就業力」、すなわち本学が目指す「自らの適性・能力に合った希望する職に就き、業務を自律的に遂行し続ける力」を育成する必要がある。

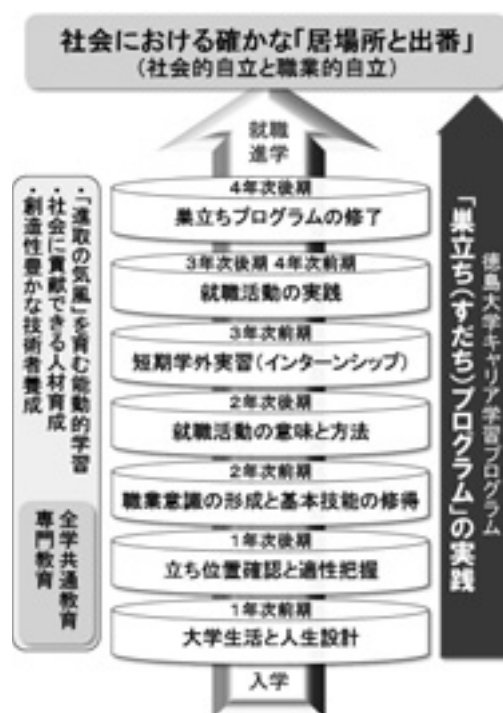
しかしながら、本学の総合科学部・工学部ではこれまで、社会における「職業的自立」を視点を据えた体系的なキャリア教育が不十分であった。そこで、本取組を通じて新たな観点から就業力育成のための「巣立ちプログラム」を展開する。

II. 本取組の内容・構成

本取組では、「巣立ちプログラム」の下に、総合科学部・工学部の学生が入学時から卒業時に至るキャリア学習プログラムを実践する。徳島大学の教育目標は、「進取の気風」を育む能動的学習とキャリア教育の推進にある。そこで、本取組の目的は、1) web版ポートフォリオの活用、2) キャリアデザイン伝承システムの実践、3) 就業力評価アンケートによる事後評価などの諸取組を通じて、学生の主体的な学習を促し、社会的・職業的自立に向けた就業力を育成することにある。

こうした目標実現のために、学生は大学における自らの学習目標やライフプランの実現に向けた履修計画を立てる必要がある。web版ポートフォリオは、そうした学生の自律的な学習活動や社会活動、キャリアデザインを支援する取組である。キャリアデザイン伝承システムは、社会に巣立つ直前の4年生が、ポートフォリオやインターンシップ、就職活動等にもとづいて後輩学生に自らの学習過程や体験を伝える取組である。こうした一連の取組結果については、就業力評価アンケート等で検証する。

本取組は、従来の就職支援室を発展的に改組して新たに設置する全学組織の「就職支援センター」主導の下に、学生の自主的な就職支援組織である「LINKS」や同窓会組織、地元の企業・自治体等とも連携して実施し、就業力検証シンポジウムや外部評価を踏まえて、不断の見直し・改善につなげる。



1 選定の要件【3 ページ以内】

(1) ～ (3) についてその実施内容(計画)を簡潔に記載してください。

(1) 就業力の育成について、本事業の「趣旨」に沿って、従来の大学教育に加え、就業して役立つ実学的専門教育を含む体系的な計画が策定されていること。

本取組の目的は、徳島大学における5学部(総合科学, 医学, 歯学, 薬学, 工学)のうち、幅広い職業人養成に携わる総合科学部ならびに工学部を対象として、以下の4つの視点から、4年一貫のキャリア教育体系となる「**巣立ちプログラム**」(表1)を全学組織である「**就職支援センター**」主導の下に実践し、学生の就業力向上を図ることにある。

①「**巣立ちプログラム**」と初年次教育における職業観の涵養

「**巣立ちプログラム**」における授業科目(キャリアプラン入門Ⅰ・ⅡおよびキャリアプランⅠ～Ⅲ)は、総合科学部・工学部においてそれぞれ同じ取組内容からなる学部共通科目として開講し、4単位が卒業要件に含まれる。

初年次学生に対しては、大学教育とキャリアデザイン形成の観点から、自らの職業観・勤労観についての動機づけを目的に、1年前期の「キャリアプラン入門Ⅰ」(必修)において、初年次講座(「大学と社会」・「職業と人生」)を開講する。同科目では、就職支援室(全学組織)が1年生を対象に実施してきたキャリアデザイン形成講座も取り込み、キャリア教育の充実を図る。1年後期の「キャリアプラン入門Ⅱ」(必修)では、自らの適性を把握するとともに、ライフプラン(人生設計)に対する基本的な視点・展望を持たせる。

また、1年生には、学習内容や技能の修得状況、社会体験といったキャリアパスを常に振り返ることができ、将来のライフプランにつながるweb版ポートフォリオの作成を課す。ポートフォリオは「**巣立ちプログラム**」の進行に応じて設計され、キャリア学習履歴に関する情報のみならず、社会人として必要な基本知識や技能、マナー、ならびにコンピテンシー(職業的自立者に求められる行動特性)を自らチェックできる

表1 「**巣立ちプログラム**」の概要

学年	プログラム取組内容	総合科学部・工学部 (学部共通科目)
		卒業要件 4単位
卒業後	社会における「居場所と出番」	/
	・卒業生へのプログラム評価アンケート ・ホームカミングデイへの参加	
4年後期	巣立ち(すだち)プログラムの修了	キャリアプランⅢ (選択)1単位
	・就職活動体験レポート作成 ・web版キャリア学習ポートフォリオの完成 ・後輩学生への学習履歴・体験の伝承	
3年後期 4年前期	就職活動の実践	正課科目は 組まれていない
	・各種の就職ガイダンス・セミナーへの参加 ・企業合同説明会等への参加	
3年前期	短期学外実習(インターンシップ)	インターンシップ (選択)2単位
	・事前研修(マナー, 基本技能等) ・受入企業・機関による講演 ・学外実習(主に8～9月) ・事後研修(実習報告と企業の評価報告)	
2年後期	就職活動の意味と方法	キャリアプランⅡ (選択)1単位
	・社会体験・職場見学の実践 ・上級学生の講演・体験談 ・講演者・卒業生等とのワークショップ	
2年前期	職業意識の形成と基本技能の修得	キャリアプランⅠ (選択)1単位
	・ジョブリサーチ講座 ・コミュニケーション力・日本語力の向上 ・プレゼンテーション力の向上	
1年後期	立ち位置確認・適性把握	キャリアプラン入門Ⅱ (必修)1単位
	・外部講師によるキャリアデザイン体験講座 ・就業力およびコンピテンシーに基づく適正把握やSPIテストの実施	
1年前期	大学生活と人生設計	キャリアプラン入門Ⅰ (必修)2単位
	・初年次講座「大学と社会」・「職業と人生」 ・キャリアデザイン形成講座 ・web版キャリア学習ポートフォリオの作成開始	

(p.13・14の資料1・2を参照)。特に、総合科学部では2年進級時のコース分属に際し、「キャリアプラン入門」科目やweb版ポートフォリオは自らのキャリアデザインにもとづくコース選択にも有用なプログラムとなる。

②web版ポートフォリオの活用と主体的取組

1年次終了までに各自の基本的な適性の把握がなされ、それに基づいてコース選択(総合科学部)や2年次以降における専門科目の履修が行われる。基本的に、総合科学部・工学部では『履修の手引き』や学部ホームページに掲載したシラバスを参考にしながら、学生自らが描くキャリアデザインに適った進路・履修計画を主体的に選択できる仕組みになっている。併せて、両学部の指導教員はポートフォリオ等を参照しつつ、個々の学生の学習履歴・キャリアデザインに応じた指導・相談・助言を行うことが可能となる。この点では、近年増えつつある潜在的な要支援学生に対しても、これまで以上にきめ細かな指導が期待される。

2年次前期の「キャリアプランⅠ」では、業種別に県内外から招聘した外部講師が業界動向や専門知識、求められる人物像について解説するジョブリサーチ講座やワークショップを通じて、職業人に求められるコミュニケーション力・プレゼンテーション力・日本語力のさらなるブラッシュアップを図る。また、2年次後期の「キャリアプランⅡ」では、県内外での社会体験や職場見学、先輩(4年生・卒業生)による体験報告とワークショップを通して、企業が学生を見る目やキャリアパスを学ぶ。

③インターンシップと実践的な能力の獲得

3年次前期に開講される「インターンシップ」では、実際に「働くこと」を体験するとともに、専門的知識や技術が企業・自治体等で如何に活用されているかを学ぶ。8～9月にかけて実施される短期学外実習に先立つ事前学習では、社会人としての心構え・マナーを学ぶとともに、汎用的技能として不可欠なICTの技量確認とブラッシュアップに務める。それゆえ、この科目を通じて、社会人として必要な基本的知識・マナーおよび実践的な能力を養うことができる。なお、ジョブリサーチ講座や職場見学・インターンシップといった体験学習の実施に際しては、専門科目(座学)との有機的な連携を図る。

3年次後期と4年次前期は学生の就職活動期にあたる。この間は正課外となるが、就職支援センター(全学組織)が実施する就職ガイダンス、各種セミナー、企業説明会等を活用し、就職活動の実践的なノウハウを身に付ける。これらの正課外活動や就職活動についてもポートフォリオに登録し、将来の「居場所と出番」に活かせるようにする。

④「巣立ちプログラム」の修了と社会的・職業自立への準備

学生が自らの進路にもとづいて、学習到達度やキャリアパスを確認できるポートフォリオは4年次後期に完成するが、それは学生の卒業後における社会的・職業的自立の原点となる。「キャリアプランⅢ」では、ポートフォリオをもとに就職活動体験レポートを作成するとともに、就業力評価アンケートにより社会人・職業人としての資質能力について自己確認させる。

また、4年次後期の「キャリアプランⅢ」受講学生が学生インストラクターとして、2年次後期の「キャリアプランⅡ」受講の学生に対して自らのキャリアパスを伝えるとともに、ワークショップによって直接アドバイスを与える。このような体験報告は改め

て自らを見直す絶好の機会となるとともに、2年生にとっても最も身近な就職活動経験者との触れ合いは大きな刺激となる。さらに、「ホームカミングデイ」制度を活用して、社会人・職業人として自立している卒業生から職場における「居場所と出番」について報告してもらい、社会に巣立つ準備とする。このような**キャリアデザイン伝承システム**の取組により、就業力向上のためのノウハウが先輩から後輩へと確実に伝えられる。

- (2) 「社会的・職業的自立に関する指導等」(キャリアガイダンス)を行う、大学内の組織間(例えば、教育を行う学内組織、厚生補導を行う組織、教務部・学務部等の事務組織)の有機的な連携による、適切な体制が整えられていること。

徳島大学ではこれまで、学生支援センター(センター長:教育担当副学長)内の就職支援室に設置された就職支援会議の下に、全学的な就職ガイダンス・企業合同説明会等を実施してきた。他方、各学部・学科における就職支援業務については就職支援室と連携しつつ、主には各学部・学科単位の就職委員会や就職担当教員が担ってきた。しかし、本取組のように教育改革を伴うキャリア学習プログラムの実施体制としては不十分なため、平成22年度中に教育担当副学長をセンター長とする**就職支援センター**を立ち上げて支援体制の強化を図るとともに、学生支援センター(学生相談室・学生生活支援室)や保健管理センターと連携しつつ、「巣立ちプログラム」の推進に努める(p.10の図1を参照)。

- (3) 就業力育成に関する大学の情報(学部等の人材養成の目的、授業科目の名称・内容、入学者・在学者・卒業者に関する情報等)を積極的に公表していること。

徳島大学では、就業力育成に関して下記の情報をホームページ上で公表している。また、学務部就職支援室では、学生向けに『就職の手引き』『就職活動スタート』『就職活動報告』や広報誌『未来にのびる徳大生』を発刊してきたほか、就職ガイダンス・企業合同説明会の情報や就職情報(求人票)検索システムなどをホームページ上で公開している。なお、総合科学部・工学部では全授業科目のシラバスやFD(授業改善)記録、「自立的技術者を育む教育プログラム」(工学部)などもホームページ上で公開している。

<徳島大学ホームページ掲載項目(<http://www.tokushima-u.ac.jp/>)>

- ▶ 大学の教育理念・目標
- ▶ 各学部の教育理念・目標
- ▶ 各学部・学科のディプロマポリシー
- ▶ 各学部・学科の教育課程とカリキュラム
- ▶ 授業科目名およびシラバス
- ▶ 入学者数・在学者数・卒業者数
- ▶ 取得可能免許・資格
- ▶ 卒業後の進路
- ▶ 就職者数
- ▶ 同窓会(渭水会・工業会)

(様式 3)

2 取組について【6 ページ以内】

(1) 取組の趣旨・目的・達成目標

①大学の置かれている状況の基本的な認識(学生の就業力の向上)

1) 徳島大学の教育目標と人材育成

総合科学部, 医学部, 歯学部, 薬学部, 工学部の5学部並びに大学院7教育部, 1専攻科からなる徳島大学の教育目標は, 「進取の気風」を育む能動的学習とキャリア教育の推進にあり, 目標達成のために, 教育の質の向上を図り, 多様な個性を尊重し高度な専門的能力を培う教育環境を構築することを第Ⅱ期中期計画に据えている。

総合科学部は平成21年度に改組を行い, 従来の2学科から3学科に再編し, 社会に貢献できる人材育成に努めている。工学部では, 7学科中6学科の工学教育プログラムがJABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けており, 当該学科の学生は卒業時に技術士補の資格を得ることができる。

2) 総合科学部・工学部における就職を取りまく現状と課題

表2に示したように, 過去5年間(平成17~21年度)における総合科学部と工学部の就職率は他学部比として低く, 就職環境が急激に悪化した平成21年度には前年度比で3~5%減となった。しかし, 就職率よりも深刻な課題は, 両学部ともに希望と異なる企業等に就職している学生も多く, 学生の就職満足度が必ずしも高くはないことにある。総合科学部が平成22年2月に4年生(定員265名)に行った就職活動アンケートでは, 「就職活動を行った」と回答した4年生150名のうち, 希望順位第1位の就業先(公務員を含む)に就職できたと回答した学生は41名(27.3%)にとどまった。

表2 徳島大学における就職率(就職者数/就職希望者数)の推移

	大学全体	総合科学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部
平成17年度	94.3%	89.8%	100.0%	100.0%	94.1%	92.1%
平成18年度	96.6%	96.3%	99.5%	100.0%	100.0%	93.9%
平成19年度	97.6%	96.8%	99.1%	100.0%	100.0%	96.4%
平成20年度	96.0%	94.5%	96.1%	90.3%	100.0%	97.6%
平成21年度	94.6%	91.3%	98.2%	100.0%	100.0%	92.6%

※数字は, 5月1日現在の最終集計。

文系・理系の学生からなる総合科学部の場合には, 学生の希望業種・職種が多岐にわたるため, 個々の学生のニーズに応じた就職支援が十分にとりにくいという課題がある。かつては大学・研究室推薦の比重が高かった工学部でも, 自由応募による就職活動が増える傾向にあり, 現時点では技術士補の資格が学生の就職活動を有利にしているとは言い難い。

徳島大学はこれまでも, 地域に根付く有為な人材育成に努め, 地元で活躍している卒業生も多い。一方, 首都圏・京阪神圏の企業への就職を望む学生については, 遠隔地であるため十分な就職活動ができず, 結果として, 必ずしも希望する企業・業種に就職できていないというケースもある。

②取組の具体的な目的

近年の経済情勢や上述した課題に対応し, 学生の就職満足度ならびに就職率の向上を

目指すためには、早急にキャリア教育体系を整備するとともに、支援体制を強化する必要がある。そうした課題に応えるべく、本取組では以下の内容のもとに「**巣立ちプログラム**」を実行する。

- 1) 入学から卒業までの一貫したキャリア学習プログラムの実践
- 2) 全学的な就職支援体制の整備と強化
- 3) 学生の主体的な取り組みを促す web 版ポートフォリオの活用
- 4) ジョブリサーチ講座・インターンシップによる実践的取組の推進と支援
- 5) 先輩から後輩へのキャリアデザイン伝承システムの構築
- 6) u-learning 教材を用いたキャリア教育の充実
- 7) 就業力評価アンケートの実施とプログラムの見直し・改善
- 8) 卒業生によるホームカミングデイの実施
- 9) 就業力向上につながる支援事業

③ 取組による達成目標

本取組の最終的な目的は、専門教育・キャリア教育を終えた卒業生が、社会的・職業的自立を果たし、**社会における確かな「居場所と出番」を獲得**することにある。そこで、本取組による成果の評価指標としては「就職率」、「学生の自己目標達成度」、「学外参加者の評価点」を用い、取組最終年度となる平成 26 年度における達成目標を次のように設定する。なお、これとは別に、卒業後 1 年を経過した卒業生に対しても「巣立ちプログラム」評価アンケート調査を行い、取組評価とする。

1) 就職率（就職者数／就職希望者数）の達成目標 = 100%

取組期間中の就職率については、平成 21 年度における総合科学部 91.3%，工学部 92.6%を基準値とし、毎年度とも前年度を上回る就職率の達成を目標とする。

2) 学生の自己目標達成度（平均） ≥ 3 （最高値 5）

学生の就業力は、希望する業種や職種、学生の能力や到達目標などが異なることから一律的な判断はできない。そこで卒業時に実施する**就業力評価アンケート**において、各自の web 版ポートフォリオに設定した自己目標に対する達成度を、最高値を 5 とする数値評価方式（VAS：ビジュアル・アナログ・スケール）をもって充てる。

なお、最終年度の平成 26 年度までは、学生が個々に設定した各期の到達目標に対する達成度（VAS 方式）をもってこの評価に充て、学年進行に合わせて評価が前年度を上回ることを達成目標とする。

3) 学外参加者の評価点（平均） ≥ 3 （最高値 5）

本取組の遂行にあたって、様々な形で学外者に協力を仰ぐことになる。そうした学外参加者に対し、巣立ちプログラムの「取組内容」や参加学生の「取組姿勢」についてのアンケート評価（VAS 方式）を実施する。各年度とも、前年度の評価結果を上回る評価を達成目標とする。

(2) 取組の具体的内容

① 取組内容

本取組は、徳島大学における教育改革の一貫として、総合科学部と工学部とを対象に、

キャリア教育を正課のカリキュラムとして体系的に整備するとともに、大学における就職支援組織の改編を行うことにより、学生の就業力向上と社会的・職業的自立を目指すものである。

1) 「巣立ちプログラム」の実践

本取組では「巣立ちプログラム」を総合科学部・工学部の学部共通科目と位置づけ、「就職支援センター」主導の下に、入学から卒業までの一貫したキャリア学習カリキュラムを段階的に展開する（p.3の表1を参照）。また、本取組の主旨は、学生が「巣立ちプログラム」に主体的に取り組むことにあることから、履修計画やポートフォリオの作成に際しては各学部の教員が指導を行う。

なお、本取組の遂行にあたり、1・2年次開講の各授業では企業等から外部講師を招聘する。その際には渭水会（総合科学部）や工業会（工学部）の同窓会組織、徳島県商工会議所等の外部組織と連携して進める。また同様に、3年次におけるインターンシップの実施に際しても、これらの外部組織やジョブリサーチ講座担当講師らと連携して受入れ先の情報収集ならびにマッチングに務める。

2) 全学的な就職支援体制の整備と強化

従来の就職支援体制を発展的に改組し、教育担当副学長をセンター長とする「就職支援センター」を新たに設置して全学的な就職支援体制を強化するとともに、実効性のある「巣立ちプログラム」を推進する。そのため、就職支援センターにはキャリア教育に長けた専任教職員を配置する。

3) web版キャリア学習ポートフォリオ作成システムの活用（p.13・14の資料1・2参照）

総合科学部と工学部の学生全員に、初年次からポートフォリオの作成を課す。ポートフォリオは学生がいつでも手軽に作成・参照できるようにweb版とする。具体的には現行のweb成績管理システムに別枠で基本シートを用意し、学生各自がパスワードで管理できるシステムとすることで、学習記録やインターンシップ・教育実習・課外活動などの体験記録、基本技能の修得度、自己のコンピテンシー（行動特性）項目の達成度などを随時入力でき、そのデータを就職活動時におけるエントリーシートに反映できるものとする。web版ポートフォリオ作成システムの構築・運用については高度情報化基盤センターと連携して行い、個人情報管理には万全を期す。

4) ジョブリサーチ講座・インターンシップを通じた実践的取組の推進と支援

従来より就職支援室（全学）では、キャリアデザイン形成講座や各種就職ガイダンスを開催してきたが、概説的な内容のものも多く、学生が求める個別の業界情報や求められる人材像について具体性を欠く場合があった。そこで、2年次前期開講の「キャリアプランⅠ」では、外部講師を招聘して総合科学部・工学部の人材育成に適った業種別のジョブリサーチ講座を開催し、個々具体的な「業務」の実態と求められる能力を理解するとともに、多様化する学生のキャリアデザイン形成に対応する。その際には、同一業種での職場見学（2年次後期）・インターンシップ（3年次前期）も合わせて企画する。

5) 先輩から後輩へのキャリアデザイン伝承システムの構築

4年次後期の「キャリアプランⅢ」受講生が、「キャリアプランⅡ」（2年次後期）の授業において学生インストラクターとして自らのポートフォリオや体験をレポートし、ワークショップを通じて社会的・職業的自立に向けて2年生のモチベーショ

ンを高める。これにより、2年生にキャリア学習プログラムのノウハウが確実にフィードバックされ、先輩から後輩へのキャリアデザインの伝承が可能となる。また、4年生にとっては卒業後における社会的・職業的自立のための準備となる。

6) キャリア教育授業における u-learning 教材の作成

徳島大学では、u-learning センターにおいて授業の u-learning コンテンツ化を進めている。「巣立ちプログラム」で実施される授業についても映像として保存し、学生の復習や就職活動支援への活用を図る。

7) 就業力・就職活動に関わるアンケートの実施

本取組の評価・改善を目的に、以下のアンケート調査を実施する。アンケート評価結果をもとに、学内 FD や外部評価を行い、本取組の PDCA サイクルにおける取組改善資料とする。

ア 各企業等に対するアンケート調査

(ア) 業界に求められる基本的能力並びにコンピテンシーに関する調査

(実効あるキャリア教育プログラム構築を目的に平成 22・23 年度に実施)

(イ) 本学卒業生の採用状況ならびに採用満足度に関する調査

(実効あるキャリア教育プログラム構築を目的に平成 22 年度に実施)

イ 4 年次学生に対する就業力評価アンケート

(平成 23 年度より毎年 1 回実施、自己目標に対する達成度や就職活動・就職満足度、「巣立ちプログラム」に関する評価等に関する調査)

ウ 卒業後 1 年を過ぎた卒業生に対する「巣立ちプログラム」に関するアンケート調査 (平成 27 年度以降に実施予定)

8) 卒業生によるホームカミングデイの実施

卒業生が在籍する企業等に対し派遣依頼し、「キャリアプラン入門」・「キャリアプラン」科目において「ホームカミングデイ」と称する講演会・セミナーを適宜実施する。社会人として活躍する身近な卒業生から就業内容を直接聞くことで、職業観・勤労観を培うとともに、同窓会組織の強化や産学連携教育の推進を図る。

9) 就業力向上につながる支援事業

総合科学部が平成 22 年 2 月に実施した「就職活動アンケート」調査結果では、資格取得に関する総回答数 139 名中 110 名 (79.1%) が「在学中に資格を取得しておけばよかった」と回答している。本取組は特定の資格取得を目的とするものではないが、資格取得は学生のキャリア意識や就業力の向上につながることから、本取組を通じて資格取得につながる専門科目を「キャリアプラン推奨科目」に指定し、積極的な受講を働きかける。

また、取組を通じて、就職支援センターが実施するキャリアデザイン形成講座や就職ガイダンス・セミナー、企業説明会への参加、メールアドレス登録 (就職情報の配信) を促し、学生の就職支援に努める。

② 取組の全体スケジュール及び各年次の実施計画

平成 22 年度は本取組の準備期間と位置づけ、主として実施体制や各種システムの整備にあてる。「巣立ちプログラム」は平成 23 年度から本格実施するが、現在の在学生の

就職支援にも有用な取組については平成 22 年度から先行実施する。詳細は表 3 に示すとおりである。

(3) 取組の実施体制等

本取組の実施にあたっては、学長の下に全学の「就職支援センター」(センター長：教育担当副学長)を設置し、特任教員・キャリアコーディネーター各 1 名(専任)を配置する。また、キャリア教育の推進、教材開発、就職相談および就職支援業務に関わる教職員も配置する。

本取組の「巣立ちプログラム」は、就職支援センター主導の下に実施し、精神的なケアが必要な学生には学生支援センター(学生相談室)と保健管理センターとが対応することで、学内組織の有機的連携を図る(図 1)。

また、総合科学部・工学部の同窓会(渭水会・工業会)や徳島県商工会議所と連携して、外部講師(地域の企業人等)の選定、インターンシップ受入れ先の情報収集、ならびに評価アンケート等を実施する。さらに、本学において自主的に活動を行っている学生就職支援会「LINKS」(内定者座談会や面接試験対策などを実施)との連携も強化し、取組をより一層活性化させる。

(4) 取組の評価体制・評価方法

① 評価体制

評価体制として、各学部同窓会会長、保護者代表、徳島県商工会議所会頭、他大学のキャリア教育担当責任者などから構成される外部評価委員会を設置し、プログラムの内容や進捗度、学生の就業力向上の効果について評価する。

表3 実施計画(平成22~26年度)

実施項目		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
キャリア教育 支援	「巣立ちプログラム」の作成	○				
	「巣立ちプログラム」の実施		○	○	○	○
	ジョブリサーチ講座の実施	○	○	○	○	○
	ホームカミングデイの実施	○	○	○	○	○
	就職支援組織の改組	○				
	特任教員・キャリアコーディネーターの雇用	○	○	○	○	○
アンケート	各職種の所要能力・知識およびコンピテンシーに関する企業へのアンケート調査	○	○			
	本学卒業生の採用状況・採用満足度に関する企業へのアンケート調査	○				
	就業力評価アンケート(学生による自己目標達成度評価)		○	○	○	○
	学外参加者への評価アンケート	○	○	○	○	○
システム 教材	web版ポートフォリオ作成システムの構築	○				
	web版ポートフォリオ作成システムの運用		○	○	○	○
	u-learning教材の作成	○	○	○	○	○
点検	就業力検証シンポジウム		○	○	○	○
	自己点検・外部評価	○	○	○	○	○

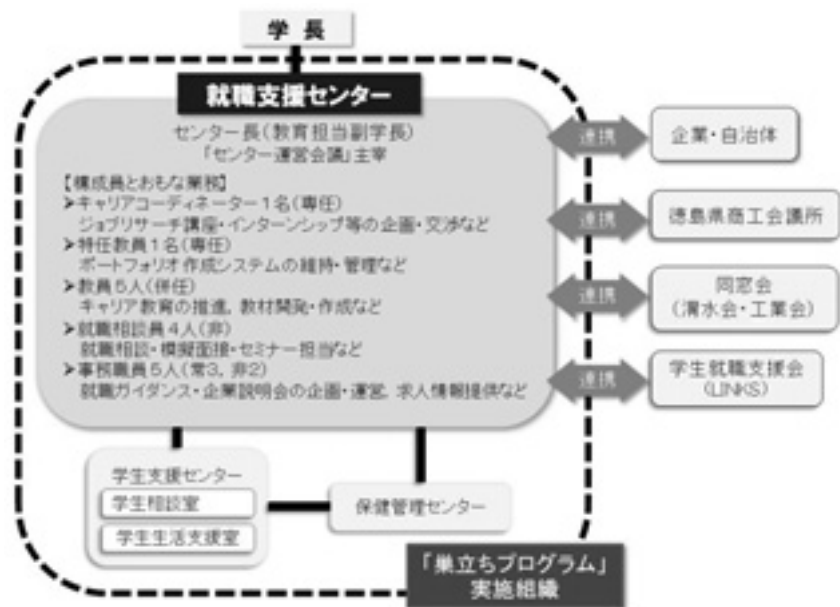


図 1 就職支援体制と「巣立ちプログラム」の実施体制

外部評価委員会では、各学期における学生へのアンケート評価結果や各年度における事業報告、4年生対象の就業力評価アンケート調査結果、毎学期末に開催する就業力検証シンポジウムなどを通じて、取組の評価や見直しを行う。同検証シンポジウムには、プログラム参加学生や受入企業・機関の担当者等も参加する。その上で、改善が必要な事項については就職支援センター運営会議に諮り、「巣立ちプログラム」の修正を行う。なお、同プログラムは本取組終了後も継続実施することから、外部評価委員会についても継続設置とする。

②評価方法

本取組では成果の評価指標として「就職率」、「学生の自己目標達成度」、「学外参加者の評価」の3点を挙げている。したがって、これらの指数による目標達成度や卒業生に実施する「巣立ちプログラム」の評価アンケート結果、そして学生の就業力検証シンポジウムでの議論を踏まえて、プログラムの内容及び就職支援体制についての評価を行う。

(5) 取組の今後の展開等

①取組に係る新たな経費の必要性

本取組におけるシステム構築および事業運営のスタートアップに際しては、以下の経費が必要となる。

- 1) web版キャリア学習ポートフォリオ作成システム構築費
- 2) u-learningコンテンツ作成経費
- 3) PCならびにサーバー経費
- 4) 特任教員経費（ポートフォリオ作成システムの維持・管理等）
- 5) キャリアコーディネーター経費（ジョブリサーチ講座・インターンシップの企画・交渉等）
- 6) キャリアデザイン教育調査経費
- 7) 各種アンケート実施経費
- 8) 外部講師経費（謝金・旅費）
- 9) 学生協力謝金
- 10) 学外研修経費
- 11) 図書資料購入費
- 12) 教材開発費

②財政支援期間終了後の大学における取組の展開の予定

本取組については平成26年度までの5年間を予定している。期間中に専任教員・キャリアコーディネーターを雇用し、web版ポートフォリオの構築・更新、教材開発とそのu-learningコンテンツ化、評価システムの構築等を進める。期間中にハード・ソフト両面での整備を進めるとともに事業の持続可能な制度的措置を講じ、財政支援期間終了後においても必要経費を最小限に抑え事業を継続させる。

第Ⅱ部

平成22年度「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」の取組内容

1 平成22年度大学改革推進等補助金（大学生の就業力育成支援事業）調書

本調書は、平成22年度大学改革推進等補助金（大学生の就業力育成支援事業）の交付（内定）を行うにあたり参考とするために提出していただくものであり、取組の申請書等における記載事項との整合性にも留意して記入して下さい。

1. 大学等名／設置者名	徳島大学／国立大学法人 徳島大学
2. 事業名	大学生の就業力育成支援事業
3. 取組名称	自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム
4. 選定年度	平成22年度
5. 事業推進代表者／事業推進責任者	事業推進代表者 学長 香川 征 事業推進責任者 副学長(教育担当理事) 和田 真
6. 事務担当者	主担当 学務部学生生活支援課長 川上 哲 TEL 088-656-7077 FAX 088-656-7636
※ 内容等の問い合わせに適切に対応できる事務担当の方で、主担当、副担当を必ず2名記載して下さい。	副担当 学務部教育支援課長 出川 隆富 TEL 088-656-9204 FAX 088-656-7292
7. 選定取組の概要（400字以内）	本取組の目的は、徳島大学における5学部のうち、幅広い職業人養成に携わる総合科学部ならびに工学部を対象として、1)初年次教育における職業観の涵養、2)Web版ポートフォリオの活用と主体的取組、3)短期インターンシップと実践的な能力の獲得、4)社会的・職業的自立への準備、の4つの視点から、4年一貫のキャリア教育体系となる「巣立ちプログラム」を全学組織である「就職支援センター」主導の下に実践し、学生の社会人基礎力・就業力の向上を図ることにある。
8. 補助事業の目的・必要性（学生の就業力育成の観点から記入するようにして下さい。）	(1) 全体 本学の総合科学部・工学部では、将来に不安を感じている学生が少なくない。これは学生が将来に対する明確な職業観やキャリアデザインが持っていないためでもある。それゆえ、本取組の「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」を実施・展開することで、学生の社会人基礎力・就業力を向上させることが必要である。 (2) 本年度 本年度の目的は、本取組の平成23年度からの本格実施に備え、4年一貫キャリア教育プログラム・シラバス等の構築、ならびにWeb版ポートフォリオのシステム開発、教材開発、キャリアコーディネーター・キャリアサポーター採用等の準備を行うことにある。
9. 本年度の補助事業実施計画（選定された取組を実施するためのスケジュールを箇条書きで記入して下さい。なお、記入に当たっては、備品の購入等、経費の支出計画ではなく、学生の就業力育成に関する取組の計画を記入して下さい。）	① 11月 就職支援組織の改組（就職支援センターの設置） ② 11月 各職種の所要能力・知識およびコンピテンシーに関する企業へのアンケート調査の実施 ③ 11月 学生による自主的就職活動組織の編成 ④ 12月 キャリアコーディネーター・キャリアサポーターの採用 ⑤ 12～3月 web版ポートフォリオ作成システムの開発・構築 ⑥ 1～3月 u-learning教材等を含む授業教材の開発・作成 ⑦ 1～3月 本学卒業生の採用状況・採用満足度に関する企業へのアンケート調査の実施 ⑧ 1～3月 就業力評価アンケート（学生による自己目標達成度評価）の実施

⑨ 2～3月 自己点検・外部評価の実施

⑩ 1～3月 就業力に関わる図書の購入

10. 補助事業の内容（選定された取組の内容を上記 9の実実施計画と対応させるよう、箇条書きで記入して下さい。なお、記入にあたっては、学生の就業力育成として行う大学の取組について具体的に記載して下さい。）

本取組は選定された大学生の就業力育成支援事業における「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」（徳大プラン）について、学生の社会人基礎力・就業力を向上させることを目指す事業であり、内容は以下の通りである。

①就職支援組織の改組（就職支援センターの設置）

本学学生のキャリアサポート体制を強化するため、これまでの就職支援室を就職支援センターに格上げして、県内外において企業開拓等に関わる専任職員を増員するとともに、本プログラムで採用予定のキャリアコーディネーター・キャリアサポーターも配置して、本プログラムの実施を全面的にバックアップする。

②各職種の所要能力・知識およびコンピテンシーに関する企業へのアンケート調査の実施

本プログラムのWeb版ポートフォリオについては、学生が自ら希望する業種・職種別ポートフォリオの構築を目指していることから、全国の企業・団体約450社に対して、社会人として求められる資質・資格、さらにコンピテンシー（行動特性）のアンケートを実施。

③学生による自主的就職活動組織の編成

本学では、内定者座談会や面接試験対策等に取り組んできた自主的な学生団体が組織されてきたが、本取組の推進にあたっては同団体とも協力して講演会やセミナーを開催するなど、学生の声も反映させた事業推進を図ることとした。

④キャリアコーディネーター・キャリアサポーターの採用

本プログラムの実践にあたって中核的な役割を果たす教職員で、本プログラムに関わる各種事業の推進やポートフォリオの維持・管理等を行うほか、キャリア教育科目の各授業について、総合科学部・工学部教員と協働・分担しながら授業を展開する。また、県内外の関係機関で本事業に関わる調査も行う。

⑤web版ポートフォリオ作成システムの開発・構築

学生の自律的な学習活動や社会活動、キャリアデザインを支援するシステムとして本学が初めて導入するもので、現行の教務システムと連動して運用する。本取組「巣立ちプログラム」の進行に応じて設計され、キャリア学習履歴に関する情報のみならず、社会人として必要な基本知識や技能、マナー、ならびにコンピテンシー（職業的自立者に求められる行動特性）を自らチェックできる。

⑥u-learning教材等を含む授業教材の開発・作成

平成23年度から導入される本プログラムにかかわる授業の教材開発を行う。徳島大学では、u-learningセンターにおいて授業のu-learningコンテンツ化を進めている。「巣立ちプログラム」で実施される授業についても映像として保存し、学生の復習や就職活動支援への活用を図る。u-learning教材の開発については、完成年度の平成26年度まで継続的に行う。

⑦本学卒業生の採用状況・採用満足度に関する企業へのアンケート調査の実施

本学におけるキャリア教育のあり方について検討するため、実効あるキャリア教育プログラム構築を目的に平成22年度に実施するものである。

⑧就業力評価アンケート（学生による自己目標達成度評価）の実施

学生の就業力は、希望する業種や職種、学生の能力や到達目標などが異なることから一律的な判断はできない。そこで卒業時に実施する就業力評価アンケートにおいて、各自のweb版ポートフォリオに設定した自己目標に対する達成度を検証する自己評価システムとしてアンケート調査を実施する。最終的には平成26年度以降における本格実施（それまでは段階的に実施）になるが、本年度は試行実施を行い、アンケート項目設定のための検討資料とする。

⑨自己点検・外部評価の実施

本年度中に本取組に関わる外部評価委員会を立ち上げるとともに、本取組についての外部意見を集約し、次年度以降の本格実施に活かす。

⑩就業力に関わる図書の購入

本学ではこれまで就職対策向けの参考書等については購入を図ってきた。本取組ではさらに、社会人基礎力・就業力に関わる図書・雑誌の充実・整備を図る。

これらを通じて、学生の社会的・職業的自立につながる就業力の強化を図ることが、本補助事業の内容である。

2 就職支援センターならびにキャリア教育推進室の開設

徳島大学では平成 22 年 11 月 1 日に、従来の「就職支援室」を改組して「就職支援センター」を新たに開設し、就職支援センター長には副学長の和田 眞理事（教育担当）、同副センター長には大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の平井松午教授（前・就職支援室長）が就任した。

就職支援センターには従来の「就職支援」部門のほかに、「キャリア教育実施支援」部門が設置され、就職支援センターは総合科学部・工学部、さらには企業・自治体、商工会議所、両学部の同窓会組織、学生による就職支援組織などと連携して、大学生の就業力育成事業「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」を推進することとなった（図 1）。

同年 12 月には「キャリア教育実施支援」部門のキャリアコーディネーター（平成 23 年 4 月より特任講師）、平成 24 年 1 月には同部門の技術補佐員（教務補助）が採用され、同時に「キャリア教育推進室」を工学部建設工学科棟 3 F に開設して、平成 22 年度の事業推進ならびに 23 年度からの授業開始に向けてのシラバス作成・教材作成・ポートフォリオ作成などが本格化した。また、月に 2～3 回の頻度で関係者による「キャリア教育推進室会議」を開催し、事業の推進に努めた。

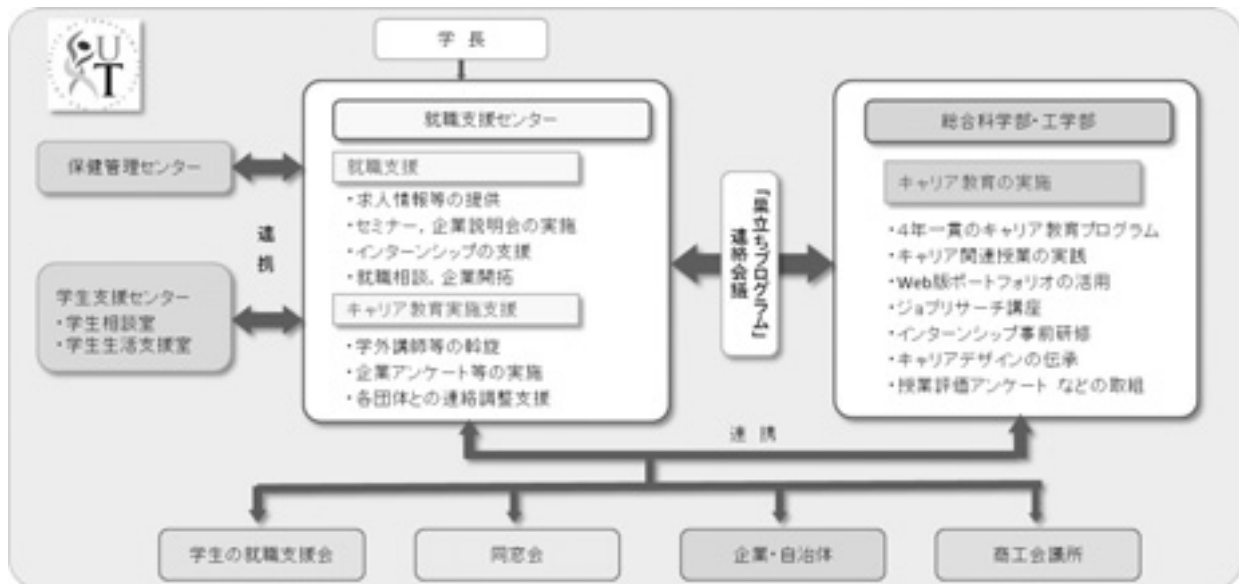


図 1 徳島大学就職支援センターの位置づけと役割

就職支援センター・キャリア教育推進室では、平成 23 年 3 月 1 日（火）に就業力 GP「巣立ちプログラム」講演会を総合科学部で開催し、「巣立ちプログラム」ならびに大学におけるキャリア教育の教職員研修を実施した。

講演者：井口徹郎氏（ベネッセコーポレーション）

演題：「国立大学におけるキャリア教育」

講演内容：①職環境の現状と実態

②他大学の取り組み事例



写真 1 「巣立ちプログラム」講演会

3 「キャリア教育の充実」に係るアンケートの実施と結果

1) アンケート依頼状（実施の趣旨）

平成22年9月16日

関係機関各位

徳島大学理事（教育担当副学長）
和田 眞

「キャリア教育の充実」に係るアンケートへのご協力依頼

拝啓 時下、ますますご清祥のことと拝察申し上げます。

平素より、徳島大学の教育・研究活動ならびに学生の就職活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、昨今の大学生の就職状況は、就職率の低下にも見られるように、極めて厳しいものとなっております。これは、企業等における採用数の減少、またそれに伴う採用条件の厳格化だけでなく、就職活動の早期化に伴う学生の準備不足等も大きな要因と考えられます。

このような現状に鑑み、この度、徳島大学（総合科学部・工学部）では、これまでの教養・専門教育に加え、初年次からのキャリア教育（職業教育）本格実施のための教育プログラムの策定に着手いたしました。

このプログラムの目的は、より高い人間力・就業力を身に付けた学生を育成して社会に送り出すことであり、そのためにはまず入学後のできるだけ早い時期に、各学生が自らの職業に対する興味と適性を的確に把握するとともに、将来進むべき業種・職種への理解を深めることにあります。このことにより、学生が自らの学習ならびに学園生活に対する目的意識や取組姿勢を高めると期待されます。

今回の貴社へのアンケート調査は、新入生が各自の適性に合った業種・職種を探索するための基礎データを収集するために下記の項目（Ⅰ～Ⅲ）についてお尋ねするものです。

Ⅰ. 貴社・貴機関において社会人として特に求められる資質・能力

Ⅱ. 貴社・貴機関において採用時に特に求められる資格

Ⅲ. 貴社・貴機関におけるコンピテンシー（※コンピテンシー：各職場で高い業績を上げている社員の行動特性）

つきましては、本取組の主旨をご理解賜り、別紙アンケートにご回答の上、10月4日（月）までに、同封の返信用封筒により必ずご返信頂きますようお願い申し上げます。なお、アンケート用紙は各職種〔1. 事務, 2. 販売, 3. サービス, 4. 専門・技術, 5. その他〕別に5種類を用意していますが、貴社・貴機関において大卒採用の可能性が高い職種の回答分（1～2職種）で結構です。記載例を参照にご記入頂ければ幸いです。

なお、アンケート結果の上記主旨以外への利用、ならびにご回答頂いた企業名・機関名の公表等を行わないことを申し添えます。また、ご希望の企業・機関等には、企業名等を伏せた集計結果を送付させて頂く予定です。ご多忙中まことに恐縮ですが、何とぞアンケートにご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

貴社のますますのご発展を心より祈念申し上げます。

敬具

【アンケート回答用紙の送付先】

〒770-8502 徳島市南常三島町 1-1 徳島大学就職支援室（共通教育4号館1F）
Tel. 088-656-7635 Fax. 088-656-7636

《アンケートに関するお問い合わせ》

総合科学部 教授 平井 松午（キャリア教育プログラム作成担当）
工学部 教授 成行 義文（キャリア教育プログラム作成担当）

2) アンケート結果 全体集計 (全職種合計)

徳島大学「キャリア教育の充実」に係るアンケート 集計結果 平成22年11月1日(月)

<p style="text-align: center;">全体</p> <p style="text-align: center;">回答総数 207件 (一社複数回答を含む)。 背景が黄緑色は上位回答, 赤太字は過半数回答。</p> <p>I. 貴社・貴機関において社会人として特に求められる資質・能力</p> <p>下記10項目中優先順位の高い5つ(最大)に○を付けて下さい。 またその中で特に重要と思われる項目は◎として下さい。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回答数</th> <th>比率</th> <th>No.</th> <th>資質・能力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>82</td><td>39.6%</td><td>1</td><td>基礎学力(教養的知識)</td></tr> <tr><td>64</td><td>30.9%</td><td>2</td><td>基礎学力(専門的知識)</td></tr> <tr><td>85</td><td>41.1%</td><td>3</td><td>社会性・社会適応力</td></tr> <tr><td>67</td><td>32.4%</td><td>4</td><td>マナー・言葉遣い</td></tr> <tr><td>97</td><td>46.9%</td><td>5</td><td>人間関係能力</td></tr> <tr><td>103</td><td>49.8%</td><td>6</td><td>協調性・協働性</td></tr> <tr><td>81</td><td>39.1%</td><td>7</td><td>使命感・責任感</td></tr> <tr><td>149</td><td>72.0%</td><td>8</td><td>コミュニケーション能力</td></tr> <tr><td>61</td><td>29.5%</td><td>9</td><td>チャレンジ精神</td></tr> <tr><td>76</td><td>36.7%</td><td>10</td><td>行動力</td></tr> <tr><td>64</td><td>30.9%</td><td>11</td><td>問題発見・解決能力</td></tr> <tr><td>23</td><td>11.1%</td><td>12</td><td>多角的な視点</td></tr> <tr><td>47</td><td>22.7%</td><td>13</td><td>発想力・創造力</td></tr> <tr><td>23</td><td>11.1%</td><td>14</td><td>企画力</td></tr> <tr><td>13</td><td>6.3%</td><td>15</td><td>コーディネート力・指導力</td></tr> <tr><td>3</td><td>1.4%</td><td>16</td><td>その他(具体的に→)</td></tr> </tbody> </table>	回答数	比率	No.	資質・能力	82	39.6%	1	基礎学力(教養的知識)	64	30.9%	2	基礎学力(専門的知識)	85	41.1%	3	社会性・社会適応力	67	32.4%	4	マナー・言葉遣い	97	46.9%	5	人間関係能力	103	49.8%	6	協調性・協働性	81	39.1%	7	使命感・責任感	149	72.0%	8	コミュニケーション能力	61	29.5%	9	チャレンジ精神	76	36.7%	10	行動力	64	30.9%	11	問題発見・解決能力	23	11.1%	12	多角的な視点	47	22.7%	13	発想力・創造力	23	11.1%	14	企画力	13	6.3%	15	コーディネート力・指導力	3	1.4%	16	その他(具体的に→)	<p>II. 貴社・貴機関において採用時に特に求められる資格</p> <p>下記22項目中、優先順位の高い5つ(最大)に○を付けて下さい。 またその中で特に重要と思われる項目は◎として下さい。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回答数</th> <th>比率</th> <th>No.</th> <th>資格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>107</td><td>51.7%</td><td>1</td><td>運転免許⇒【種類:_____】</td></tr> <tr><td>44</td><td>21.3%</td><td>2</td><td>TOEIC⇒【_____点以上】</td></tr> <tr><td>3</td><td>1.4%</td><td>3</td><td>TOEFL⇒【_____点以上】</td></tr> <tr><td>9</td><td>4.3%</td><td>4</td><td>英検(実用英語技能検定)⇒【_____級以上】</td></tr> <tr><td>2</td><td>1.0%</td><td>5</td><td>工業英語能力検定試験⇒【_____級以上】</td></tr> <tr><td>4</td><td>1.9%</td><td>6</td><td>中国語検定⇒【_____級以上】</td></tr> <tr><td>5</td><td>2.4%</td><td>7</td><td>ビジネス中国語検定</td></tr> <tr><td>8</td><td>3.9%</td><td>8</td><td>日本漢字能力検定⇒【_____級以上】</td></tr> <tr><td>25</td><td>12.1%</td><td>9</td><td>簿記能力検定⇒【_____級以上】</td></tr> <tr><td>7</td><td>3.4%</td><td>10</td><td>ビジネス能力検定⇒【_____級以上】</td></tr> <tr><td>17</td><td>8.2%</td><td>11</td><td>情報処理検定⇒【_____級以上】</td></tr> <tr><td>21</td><td>10.1%</td><td>12</td><td>パソコン検定試験(P検)⇒【_____級以上】</td></tr> <tr><td>1</td><td>0.5%</td><td>13</td><td>ビジネスキーボード認定試験(日本語, 英語, 数値)</td></tr> <tr><td>23</td><td>11.1%</td><td>14</td><td>Excel表計算処理技能認定試験⇒【_____級以上】</td></tr> <tr><td>15</td><td>7.2%</td><td>15</td><td>マイクロソフト認定資格</td></tr> <tr><td>5</td><td>2.4%</td><td>16</td><td>ファイナンシャルプランナー</td></tr> <tr><td>2</td><td>1.0%</td><td>17</td><td>行政書士</td></tr> <tr><td>1</td><td>0.5%</td><td>18</td><td>医療事務</td></tr> <tr><td>2</td><td>1.0%</td><td>19</td><td>秘書検定⇒【_____級以上】</td></tr> <tr><td>2</td><td>1.0%</td><td>20</td><td>色彩検定⇒【_____級以上】</td></tr> <tr><td>1</td><td>0.5%</td><td>21</td><td>実用ボールペン字</td></tr> <tr><td>22</td><td>10.6%</td><td>22</td><td>その他(具体的に→)</td></tr> </tbody> </table>	回答数	比率	No.	資格	107	51.7%	1	運転免許⇒【種類:_____】	44	21.3%	2	TOEIC⇒【_____点以上】	3	1.4%	3	TOEFL⇒【_____点以上】	9	4.3%	4	英検(実用英語技能検定)⇒【_____級以上】	2	1.0%	5	工業英語能力検定試験⇒【_____級以上】	4	1.9%	6	中国語検定⇒【_____級以上】	5	2.4%	7	ビジネス中国語検定	8	3.9%	8	日本漢字能力検定⇒【_____級以上】	25	12.1%	9	簿記能力検定⇒【_____級以上】	7	3.4%	10	ビジネス能力検定⇒【_____級以上】	17	8.2%	11	情報処理検定⇒【_____級以上】	21	10.1%	12	パソコン検定試験(P検)⇒【_____級以上】	1	0.5%	13	ビジネスキーボード認定試験(日本語, 英語, 数値)	23	11.1%	14	Excel表計算処理技能認定試験⇒【_____級以上】	15	7.2%	15	マイクロソフト認定資格	5	2.4%	16	ファイナンシャルプランナー	2	1.0%	17	行政書士	1	0.5%	18	医療事務	2	1.0%	19	秘書検定⇒【_____級以上】	2	1.0%	20	色彩検定⇒【_____級以上】	1	0.5%	21	実用ボールペン字	22	10.6%	22	その他(具体的に→)																																																																																																																																																
回答数	比率	No.	資質・能力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
82	39.6%	1	基礎学力(教養的知識)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
64	30.9%	2	基礎学力(専門的知識)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
85	41.1%	3	社会性・社会適応力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
67	32.4%	4	マナー・言葉遣い																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
97	46.9%	5	人間関係能力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
103	49.8%	6	協調性・協働性																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
81	39.1%	7	使命感・責任感																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
149	72.0%	8	コミュニケーション能力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
61	29.5%	9	チャレンジ精神																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
76	36.7%	10	行動力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
64	30.9%	11	問題発見・解決能力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
23	11.1%	12	多角的な視点																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
47	22.7%	13	発想力・創造力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
23	11.1%	14	企画力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
13	6.3%	15	コーディネート力・指導力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
3	1.4%	16	その他(具体的に→)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
回答数	比率	No.	資格																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
107	51.7%	1	運転免許⇒【種類:_____】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
44	21.3%	2	TOEIC⇒【_____点以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
3	1.4%	3	TOEFL⇒【_____点以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
9	4.3%	4	英検(実用英語技能検定)⇒【_____級以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
2	1.0%	5	工業英語能力検定試験⇒【_____級以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
4	1.9%	6	中国語検定⇒【_____級以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
5	2.4%	7	ビジネス中国語検定																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
8	3.9%	8	日本漢字能力検定⇒【_____級以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
25	12.1%	9	簿記能力検定⇒【_____級以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
7	3.4%	10	ビジネス能力検定⇒【_____級以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
17	8.2%	11	情報処理検定⇒【_____級以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
21	10.1%	12	パソコン検定試験(P検)⇒【_____級以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1	0.5%	13	ビジネスキーボード認定試験(日本語, 英語, 数値)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
23	11.1%	14	Excel表計算処理技能認定試験⇒【_____級以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
15	7.2%	15	マイクロソフト認定資格																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
5	2.4%	16	ファイナンシャルプランナー																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
2	1.0%	17	行政書士																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1	0.5%	18	医療事務																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
2	1.0%	19	秘書検定⇒【_____級以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
2	1.0%	20	色彩検定⇒【_____級以上】																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1	0.5%	21	実用ボールペン字																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
22	10.6%	22	その他(具体的に→)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
<p>III. 貴社・貴機関におけるコンピテンシー</p> <p>(※コンピテンシー:業務内容や役職に応じて企業が社員に期待する「あるべき姿」(各職場で高い業績を上げている社員の行動特性)) 参考: http://www.sabcd.com/01kikon/13kikon.htm (コンピテンシー・マスター(株式会社タジマ))</p> <p>下記(1)~(8)の各項目群において、特に重要な特性に○を付けて下さい。なお○を付ける最大個数は項目毎に異なりますのでご注意ください。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回答数</th> <th>比率</th> <th>No.</th> <th>(1) 自己の成熟性に関する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>38</td><td>18.4%</td><td>1</td><td>冷静さ</td></tr> <tr><td>130</td><td>62.8%</td><td>2</td><td>確実さ</td></tr> <tr><td>32</td><td>15.5%</td><td>3</td><td>几帳面さ</td></tr> <tr><td>20</td><td>9.7%</td><td>4</td><td>慎重さ</td></tr> <tr><td>126</td><td>60.9%</td><td>5</td><td>ストレス耐性</td></tr> <tr><td>42</td><td>20.3%</td><td>6</td><td>徹底性</td></tr> <tr><td>50</td><td>24.2%</td><td>7</td><td>率直性</td></tr> <tr><td>27</td><td>13.0%</td><td>8</td><td>自己理解</td></tr> <tr><td>57</td><td>27.5%</td><td>9</td><td>思いやり</td></tr> <tr><td>55</td><td>26.6%</td><td>10</td><td>ビジネスマナー</td></tr> <tr><td>4</td><td>1.9%</td><td>11</td><td>その他(具体的に→)</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回答数</th> <th>比率</th> <th>No.</th> <th>(2) 変化行動・意思決定に関する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>85</td><td>41.1%</td><td>1</td><td>行動志向</td></tr> <tr><td>72</td><td>34.8%</td><td>2</td><td>自律志向</td></tr> <tr><td>0</td><td>0.0%</td><td>3</td><td>リスクテイク(危険を冒すこと)</td></tr> <tr><td>86</td><td>41.5%</td><td>4</td><td>柔軟志向</td></tr> <tr><td>88</td><td>42.5%</td><td>5</td><td>素直さ</td></tr> <tr><td>62</td><td>30.0%</td><td>6</td><td>自己革新(啓発)</td></tr> <tr><td>81</td><td>39.1%</td><td>7</td><td>チャレンジ性</td></tr> <tr><td>6</td><td>2.9%</td><td>8</td><td>逆説への対処</td></tr> <tr><td>28</td><td>13.5%</td><td>9</td><td>タイムリーな決断</td></tr> <tr><td>86</td><td>41.5%</td><td>10</td><td>目標達成への執着</td></tr> <tr><td>1</td><td>0.5%</td><td>11</td><td>その他(具体的に→)</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回答数</th> <th>比率</th> <th>No.</th> <th>(3) 対人(顧客)・営業活動に関する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>40</td><td>19.3%</td><td>1</td><td>親密性ユーモア</td></tr> <tr><td>56</td><td>27.1%</td><td>2</td><td>第一印象度</td></tr> <tr><td>121</td><td>58.5%</td><td>3</td><td>プレゼンテーション力</td></tr> <tr><td>139</td><td>67.1%</td><td>4</td><td>傾聴力</td></tr> <tr><td>35</td><td>16.9%</td><td>5</td><td>新規開拓力</td></tr> <tr><td>4</td><td>1.9%</td><td>6</td><td>その他(具体的に→)</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回答数</th> <th>比率</th> <th>No.</th> <th>(4) 業務遂行に関する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>99</td><td>47.8%</td><td>1</td><td>専門知識・革新技術の習得</td></tr> <tr><td>42</td><td>20.3%</td><td>2</td><td>文章力</td></tr> <tr><td>35</td><td>16.9%</td><td>3</td><td>計数処理力</td></tr> <tr><td>56</td><td>27.1%</td><td>4</td><td>処理速度</td></tr> <tr><td>78</td><td>37.7%</td><td>5</td><td>コスト意識</td></tr> <tr><td>52</td><td>25.1%</td><td>6</td><td>トラブル処理</td></tr> <tr><td>96</td><td>46.4%</td><td>7</td><td>計画性</td></tr> <tr><td>85</td><td>41.1%</td><td>8</td><td>業務改善/品質の向上</td></tr> <tr><td>40</td><td>19.3%</td><td>9</td><td>業務企画力</td></tr> <tr><td>0</td><td>0.0%</td><td>10</td><td>その他(具体的に→)</td></tr> </tbody> </table>	回答数	比率	No.	(1) 自己の成熟性に関する項目	38	18.4%	1	冷静さ	130	62.8%	2	確実さ	32	15.5%	3	几帳面さ	20	9.7%	4	慎重さ	126	60.9%	5	ストレス耐性	42	20.3%	6	徹底性	50	24.2%	7	率直性	27	13.0%	8	自己理解	57	27.5%	9	思いやり	55	26.6%	10	ビジネスマナー	4	1.9%	11	その他(具体的に→)	回答数	比率	No.	(2) 変化行動・意思決定に関する項目	85	41.1%	1	行動志向	72	34.8%	2	自律志向	0	0.0%	3	リスクテイク(危険を冒すこと)	86	41.5%	4	柔軟志向	88	42.5%	5	素直さ	62	30.0%	6	自己革新(啓発)	81	39.1%	7	チャレンジ性	6	2.9%	8	逆説への対処	28	13.5%	9	タイムリーな決断	86	41.5%	10	目標達成への執着	1	0.5%	11	その他(具体的に→)	回答数	比率	No.	(3) 対人(顧客)・営業活動に関する項目	40	19.3%	1	親密性ユーモア	56	27.1%	2	第一印象度	121	58.5%	3	プレゼンテーション力	139	67.1%	4	傾聴力	35	16.9%	5	新規開拓力	4	1.9%	6	その他(具体的に→)	回答数	比率	No.	(4) 業務遂行に関する項目	99	47.8%	1	専門知識・革新技術の習得	42	20.3%	2	文章力	35	16.9%	3	計数処理力	56	27.1%	4	処理速度	78	37.7%	5	コスト意識	52	25.1%	6	トラブル処理	96	46.4%	7	計画性	85	41.1%	8	業務改善/品質の向上	40	19.3%	9	業務企画力	0	0.0%	10	その他(具体的に→)	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回答数</th> <th>比率</th> <th>No.</th> <th>(5) 組織・チームワークに関する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>153</td><td>73.9%</td><td>1</td><td>上司・先輩との関係</td></tr> <tr><td>163</td><td>78.7%</td><td>2</td><td>チーム精神の発揮</td></tr> <tr><td>28</td><td>13.5%</td><td>3</td><td>ムードメーカー性</td></tr> <tr><td>4</td><td>1.9%</td><td>4</td><td>その他(具体的に→)</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回答数</th> <th>比率</th> <th>No.</th> <th>(6) 戦略・思考に関する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>121</td><td>58.5%</td><td>1</td><td>視点の広さと深さ</td></tr> <tr><td>39</td><td>18.8%</td><td>2</td><td>アイデア思考</td></tr> <tr><td>96</td><td>46.4%</td><td>3</td><td>論理思考</td></tr> <tr><td>116</td><td>56.0%</td><td>4</td><td>状況分析</td></tr> <tr><td>83</td><td>40.1%</td><td>5</td><td>解決策の立案</td></tr> <tr><td>44</td><td>21.3%</td><td>6</td><td>リスク管理</td></tr> <tr><td>25</td><td>12.1%</td><td>7</td><td>コンセプトの設定</td></tr> <tr><td>42</td><td>20.3%</td><td>8</td><td>アイデアを活かす力</td></tr> <tr><td>22</td><td>10.6%</td><td>9</td><td>思考持久力</td></tr> <tr><td>0</td><td>0.0%</td><td>10</td><td>その他(具体的に→)</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回答数</th> <th>比率</th> <th>No.</th> <th>(7) 情報に関する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>95</td><td>45.9%</td><td>1</td><td>情報の収集</td></tr> <tr><td>69</td><td>33.3%</td><td>2</td><td>情報の整理</td></tr> <tr><td>50</td><td>24.2%</td><td>3</td><td>情報の伝達</td></tr> <tr><td>138</td><td>66.7%</td><td>4</td><td>情報の活用と共有化</td></tr> <tr><td>38</td><td>18.4%</td><td>5</td><td>情報の発信</td></tr> <tr><td>16</td><td>7.7%</td><td>6</td><td>情報倫理</td></tr> <tr><td>2</td><td>1.0%</td><td>7</td><td>その他(具体的に→)</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回答数</th> <th>比率</th> <th>No.</th> <th>(8) リーダーに関する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>73</td><td>35.3%</td><td>1</td><td>理念・方針の共有</td></tr> <tr><td>159</td><td>76.8%</td><td>2</td><td>部下・後輩の指導育成</td></tr> <tr><td>114</td><td>55.1%</td><td>3</td><td>コミュニケーションの充実</td></tr> <tr><td>34</td><td>16.4%</td><td>4</td><td>指揮・命令・徹底</td></tr> <tr><td>100</td><td>48.3%</td><td>5</td><td>目標の管理および評価</td></tr> <tr><td>20</td><td>9.7%</td><td>6</td><td>経営幹部との関係</td></tr> <tr><td>7</td><td>3.4%</td><td>7</td><td>システム管理力</td></tr> <tr><td>75</td><td>36.2%</td><td>8</td><td>業務管理力</td></tr> <tr><td>0</td><td>0.0%</td><td>9</td><td>その他(具体的に→)</td></tr> </tbody> </table>	回答数	比率	No.	(5) 組織・チームワークに関する項目	153	73.9%	1	上司・先輩との関係	163	78.7%	2	チーム精神の発揮	28	13.5%	3	ムードメーカー性	4	1.9%	4	その他(具体的に→)	回答数	比率	No.	(6) 戦略・思考に関する項目	121	58.5%	1	視点の広さと深さ	39	18.8%	2	アイデア思考	96	46.4%	3	論理思考	116	56.0%	4	状況分析	83	40.1%	5	解決策の立案	44	21.3%	6	リスク管理	25	12.1%	7	コンセプトの設定	42	20.3%	8	アイデアを活かす力	22	10.6%	9	思考持久力	0	0.0%	10	その他(具体的に→)	回答数	比率	No.	(7) 情報に関する項目	95	45.9%	1	情報の収集	69	33.3%	2	情報の整理	50	24.2%	3	情報の伝達	138	66.7%	4	情報の活用と共有化	38	18.4%	5	情報の発信	16	7.7%	6	情報倫理	2	1.0%	7	その他(具体的に→)	回答数	比率	No.	(8) リーダーに関する項目	73	35.3%	1	理念・方針の共有	159	76.8%	2	部下・後輩の指導育成	114	55.1%	3	コミュニケーションの充実	34	16.4%	4	指揮・命令・徹底	100	48.3%	5	目標の管理および評価	20	9.7%	6	経営幹部との関係	7	3.4%	7	システム管理力	75	36.2%	8	業務管理力	0	0.0%	9	その他(具体的に→)
回答数	比率	No.	(1) 自己の成熟性に関する項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
38	18.4%	1	冷静さ																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
130	62.8%	2	確実さ																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
32	15.5%	3	几帳面さ																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
20	9.7%	4	慎重さ																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
126	60.9%	5	ストレス耐性																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
42	20.3%	6	徹底性																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
50	24.2%	7	率直性																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
27	13.0%	8	自己理解																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
57	27.5%	9	思いやり																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
55	26.6%	10	ビジネスマナー																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
4	1.9%	11	その他(具体的に→)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
回答数	比率	No.	(2) 変化行動・意思決定に関する項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
85	41.1%	1	行動志向																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
72	34.8%	2	自律志向																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
0	0.0%	3	リスクテイク(危険を冒すこと)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
86	41.5%	4	柔軟志向																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
88	42.5%	5	素直さ																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
62	30.0%	6	自己革新(啓発)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
81	39.1%	7	チャレンジ性																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
6	2.9%	8	逆説への対処																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
28	13.5%	9	タイムリーな決断																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
86	41.5%	10	目標達成への執着																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
1	0.5%	11	その他(具体的に→)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
回答数	比率	No.	(3) 対人(顧客)・営業活動に関する項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
40	19.3%	1	親密性ユーモア																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
56	27.1%	2	第一印象度																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
121	58.5%	3	プレゼンテーション力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
139	67.1%	4	傾聴力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
35	16.9%	5	新規開拓力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
4	1.9%	6	その他(具体的に→)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
回答数	比率	No.	(4) 業務遂行に関する項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
99	47.8%	1	専門知識・革新技術の習得																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
42	20.3%	2	文章力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
35	16.9%	3	計数処理力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
56	27.1%	4	処理速度																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
78	37.7%	5	コスト意識																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
52	25.1%	6	トラブル処理																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
96	46.4%	7	計画性																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
85	41.1%	8	業務改善/品質の向上																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
40	19.3%	9	業務企画力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
0	0.0%	10	その他(具体的に→)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
回答数	比率	No.	(5) 組織・チームワークに関する項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
153	73.9%	1	上司・先輩との関係																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
163	78.7%	2	チーム精神の発揮																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
28	13.5%	3	ムードメーカー性																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
4	1.9%	4	その他(具体的に→)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
回答数	比率	No.	(6) 戦略・思考に関する項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
121	58.5%	1	視点の広さと深さ																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
39	18.8%	2	アイデア思考																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
96	46.4%	3	論理思考																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
116	56.0%	4	状況分析																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
83	40.1%	5	解決策の立案																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
44	21.3%	6	リスク管理																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
25	12.1%	7	コンセプトの設定																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
42	20.3%	8	アイデアを活かす力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
22	10.6%	9	思考持久力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
0	0.0%	10	その他(具体的に→)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
回答数	比率	No.	(7) 情報に関する項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
95	45.9%	1	情報の収集																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
69	33.3%	2	情報の整理																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
50	24.2%	3	情報の伝達																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
138	66.7%	4	情報の活用と共有化																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
38	18.4%	5	情報の発信																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
16	7.7%	6	情報倫理																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
2	1.0%	7	その他(具体的に→)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
回答数	比率	No.	(8) リーダーに関する項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
73	35.3%	1	理念・方針の共有																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
159	76.8%	2	部下・後輩の指導育成																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
114	55.1%	3	コミュニケーションの充実																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
34	16.4%	4	指揮・命令・徹底																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
100	48.3%	5	目標の管理および評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
20	9.7%	6	経営幹部との関係																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
7	3.4%	7	システム管理力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
75	36.2%	8	業務管理力																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
0	0.0%	9	その他(具体的に→)																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
<p>IV. アンケート集計結果の送付希望の有無</p> <p>↓いずれかに○を付けて下さい。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回答数</th> <th>比率</th> <th>No.</th> <th>希望の有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>152</td><td>73.4%</td><td>1</td><td>アンケート集計結果の送付を希望する。</td></tr> <tr><td>52</td><td>25.1%</td><td>2</td><td>アンケート集計結果の送付を希望しない。</td></tr> </tbody> </table> <p>アンケートにご協力頂き、誠に有り難うございました。</p>		回答数	比率	No.	希望の有無	152	73.4%	1	アンケート集計結果の送付を希望する。	52	25.1%	2	アンケート集計結果の送付を希望しない。																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
回答数	比率	No.	希望の有無																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
152	73.4%	1	アンケート集計結果の送付を希望する。																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
52	25.1%	2	アンケート集計結果の送付を希望しない。																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

3) アンケート結果の概要

アンケート実施組織： 徳島大学総合科学部・工学部
アンケート実施責任者： キャリア教育プログラム作成担当（平井・成行）
実施目的： 徳島大学（総合科学部・工学部）におけるキャリア教育の充実
実施時期： 平成 22 年 9 月 16 日 郵送
回収期日： 平成 22 年 10 月 4 日
発送数： 449 企業・団体
回収数： 144 企業・団体（回収率 32.1%）

1. アンケートの回収数

アンケートについては、徳島県内のみならず、全国の企業・団体を対象として行った。アンケートを発送した企業団体は、徳島大学において会社説明会等を行ったことのある企業・団体のほか、総合科学部・工学部の各就職担当者から推挙を受けた企業を対象とした。

この結果、全 449 企業・団体に対して郵送法によりアンケートを配付し、回収締切期日前後までに返送してきた 144 社・機関を集計の対象とした。郵送・回収した企業・団体の業種・地域については、別紙の集計表（表 1）の通りである。業種（産業中分類）は 16 業種にわたり、製造業については 11 業種に細分される。郵送法によるため、全体の回収率は 32.1%と高くはないが、その中では「公務」（21 件／38 件，55.3%）、「製（はん用）」（8 件／14 件，57.1%）、技術（8 件／17 件，47.1%）が比較的高い回答率となった。郵送先には四国・徳島県内の行政機関・自治体が含まれており、こうした団体の回答率が高かったといえる。

地域別に発送数が多かったのは、本社機能が集積する東京都（140 件）、地元の徳島県（120 件）、徳島に近い大阪府（62 件）、香川県（34 件）の順になっているが、東京都に所在する企業・団体の回答率は 14.3%とかなり低かった。これに対し、徳島県の企業・団体の回収率は 51.7%と高く、徳島大学が地元の企業・自治体等から一定の理解を得られているといえる。

2. アンケートの集計結果

アンケートの集計結果については、「全体」集計（回答総数 204 件）のほかに、「事務」（同 52 件）、「専門・技術」（同 96 件）、「販売・サービス・その他」（同 59 件）の職種別に集計した。

言うまでもなく、仮に製造業関連の会社であっても、会社の業務に携わる部署・人材は研究開発、製造、営業、総務・経理の事務など、多様な職種から構成されている。そこで、学生が自らのキャリアデザインを構築する際にも、職種別の方がより現実的に対応しやすいことから、本アンケートの集計は職種別に集計した。

なお、こうした集計法を踏まえて、郵送時には「事務」「販売」「サービス」「専門・技術」「その他」の 5 種のアンケートを用意し、各企業・団体に郵送した。その結果、一部の企業・団体については、「事務」「専門・技術」の 2 件といった形で複数のアンケート用紙を返送していただいたことから、回収数 144 社・機関に対して、回答総数は 207 件となった。なお、いずれの職種の場合にも、アンケート質問項目は同一であるが、「販売」・「サービス」・「その他」の職種については、回答数がそれぞれ 33 件、9 件、17 件であったことから、「販売・サービス・その他」に再集計した数字 59 件をあげている。

アンケートの質問項目は、「Ⅰ. 貴社・貴機関において社会人として特に求められる資質・能力」、「Ⅱ. 貴社・貴機関において採用時に特に求められる資格」、「Ⅲ. 貴社・貴機関におけるコンピテンシー」の大項目から構成され、「Ⅲ. 貴社・貴機関におけるコンピテンシー」については「コンピテンシー・マスター（柗タジマ）（<http://www.sabcd.com/01kihon/13kihon.htm>）」を参考にした。

経済産業省が平成 18 年 4 月に実施した「社会人基礎力に関する緊急調査」（<http://www.meti.go.jp/press/20060418005/shakaijin,kisoryoku-chousa-set.pdf>）では、社会人基礎力に求められる 3 つの力として「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」をあげ、さらに主体性、実行力、課題発見力、創造力、柔軟性などの 12 の能力をあげているが、今回のアンケート調査では、職種別にこうした能力をある程度把握することができたと思われる。以下は、アンケート結果の要約（概報）であり、今後さらにアンケート結果の分析を進めていきたい。

【全体集計】結果 回答総数 204 件

I. 貴社・貴機関において社会人として特に求められる資質・能力

回答総数 207 件中 149 件 (72.0%) が「コミュニケーション能力」を、社会人に絶対不可欠な資質と捉えている。「協調性・協働性」103 件、「人間関係能力」97 件、「社会性・社会適応力」85 件、「使命感・責任感」81 件、「基礎学力 (教養的知識)」82 件、「行動力」76 件がこれに続くが、往々にして大学生に欠けている「使命感・責任感」が社会においては強く求められている点に留意すべきである。

II. 貴社・貴機関において採用時に特に求められる資格

回答総数 207 件中、107 件 (51.7%) が「運転免許」を必要な資格にあげている。とくに東京都や大阪府の企業・団体の回答率が低いこともあって、(地方における) 運転免許が資格として望まれているものとみられる。これに「TOEIC」44 件、「簿記能力検定」25 件、「Excel 表計算処理技能認定試験」23 件、「パソコン検定試験 (P 検)」21 件が続くが、資格は必ずしも強く求められているわけではないともいえる。

III. 貴社・貴機関におけるコンピテンシー

1) 「自己の成熟性に関する項目」

「確実さ」130 件、「ストレス耐性」126 件が高く、「思いやり」57 件などがこれに続く。勤務先での「ストレス耐性」「ストレスコントロール力」は社会人に求められる要素となっている点に注意したい。

2) 「変化行動・意思決定に関する項目」

回答項目は、「素直さ」88 件、「柔軟指向」86 件、「目標達成への執着」86 件、「行動志向」85 件、「チャレンジ性」81 件、「自律志向」72 件、「自己革新 (啓発)」62 件と分散する傾向にある。

3) 「対人 (顧客)・営業活動に関する項目」

「傾聴力」139 件、「プレゼンテーション力」121 件の 2 件が、圧倒的に回答数が多い。まずは、相手の話を聞け、自らの考えを表現できる能力が求められているといえる。

4) 「業務遂行に関する項目」

この項目についても、「専門知識・革新技術の習得」99 件、「計画性」96 件、「業務改善/品質の向上」85 件、「コスト意識」78 件、「処理速度」56 件、「トラブル処理」52 件と、回答が分散する傾向にある。

5) 「組織・チームワークに関する項目」

これについては、「チーム精神の発揮」163 件、「上梓・先輩との関係」153 件が、極めて重視されている。実質 3 問中 2 問の回答だったため当然の結果ともいえるが、どちらかといえば「チーム精神の発揮」の方が重視される。

6) 「戦略・思考に関する項目」

「視点の広さと深さ」12 件、「状況分析」116 件が過半数の回答を集めている。業務遂行にあたって、多角的で正確な状況判断が求められているといえる。その他には、「論理思考」96 件、「解決策の立案」83 件の回答が多い。

7) 「情報に関する項目」

「情報の活用と共有化」138 件が高く、「情報の収集」95 件、「情報の整理」69 件、「情報の伝達」50 件がこれに続く。集約された情報を如何に「活かすか」が求められている。

8) 「リーダーに関する項目」

当然ながら、「部下・後輩の指導育成」が 159 件と極めて高く、「コミュニケーションの充実」114 件、「目標の管理および評価」100 件、「業務管理力」75 件、「理念・方策の共有」73 件がこれに続く。

以下、職種別には特徴的な点のみを記述する。

【「事務」集計】結果 回答総数 52 件

I. 貴社・貴機関において社会人として特に求められる資質・能力

ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

II. 貴社・貴機関において採用時に特に求められる資格

ほぼ、全体集計と同じ傾向にあるが、経理関係の「簿記能力検定」10 件および「TOEIC」10 件の回答が比較的多い。

III. 貴社・貴機関におけるコンピテンシー

1) 「自己の成熟性に関する項目」

「確実さ」37 件、「ストレス耐性」30 件に続き、事務職特有の「几帳面さ」15 件も求められる。

- 2) 「変化行動・意思決定に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。
- 3) 「対人(顧客)・営業活動に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。
- 4) 「業務遂行に関する項目」

「計画性」29件のほか、事務職に求められる「文章力」20件、「処理速度」19件が高い回答数となっている。

- 5) 「組織・チームワークに関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。
- 6) 「戦略・思考に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。
- 7) 「情報に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。
- 8) 「リーダーに関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

【「専門・技術」集計】結果 回答総数 96 件

I. 貴社・貴機関において社会人として特に求められる資質・能力

「コミュニケーション応力」69件(71.9%)に次いで、「基礎学力(専門的知識)」が57件(59.4%)とかなり高い回答数となっている。専門・技術職に求められる重要な資質といえる。

II. 貴社・貴機関において採用時に特に求められる資格

ほぼ、全体集計と同じ傾向にあるものの、「TOIEC」が28件(29.2%)を占める。技術職としての能力を維持するためには語学力も求められる。

III. 貴社・貴機関におけるコンピテンシー

- 1) 「自己の成熟性に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

- 2) 「変化行動・意思決定に関する項目」

「目標達成への執着」47件、「チャレンジ性」39件、「素直さ」39件、「自律志向」38件、「柔軟志向」37件、「行動志向」36件と、理系・技術系に求められる意識・行動項目の回答が多い。

- 3) 「対人(顧客)・営業活動に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

- 4) 「業務遂行に関する項目」

7割以上の企業・団体が「専門知識・革新技術の修得」70件を求めており、「業務改善/品質の向上」47件と「計画性」46件、「コスト意識」36件がこれに続いていて、事務系職種とは明確に異なる行動特性といえる。

- 5) 「組織・チームワークに関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

- 6) 「戦略・思考に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

- 7) 「情報に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

- 8) 「リーダーに関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

【「販売・サービス・その他」集計】結果 回答総数 59 件

I. 貴社・貴機関において社会人として特に求められる資質・能力

ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

II. 貴社・貴機関において採用時に特に求められる資格

ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

III. 貴社・貴機関におけるコンピテンシー

- 1) 「自己の成熟性に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

- 2) 「変化行動・意思決定に関する項目」

この職種には営業関係を含むことから、「行動志向」32件が最も高く、「チャレンジ性」29件、「素直さ」26件、「目標達成への執着」26件が続く。

- 3) 「対人(顧客)・営業活動に関する項目」

「傾聴力」40件、「第一印象度」24件、「プレゼンテーション力」23件がとくに高い点が特徴的で、営業職に求められる行動特性ともいえる。

- 4) 「業務遂行に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

- 5) 「組織・チームワークに関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

- 6) 「戦略・思考に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

- 7) 「情報に関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

- 8) 「リーダーに関する項目」 ほぼ、全体集計と同じ傾向にある。

4 キャリア学習ポートフォリオシステムの構築と利用法

1) キャリア学習ポートフォリオシステムの構築と運用法

徳島大学の「自らの就業力育成を促す巣立ちプログラム」では、平成 22 年度に「キャリア学習ポートフォリオ」システムを構築し、平成 23 年 4 月より運用を開始している。平成 23 年度前期に開始された「キャリアプラン入門 I」の最初の授業時には、30 ページの冊子体からなる『キャリア学習ポートフォリオ学生ポータル 利用手引書』の運用マニュアル（図 1）を受講生全員に配布した。その上で、利用法について説明するとともに、授業時の学習記録やレポートについてはポートフォリオを通じて提出させるとともに、「社会人基礎力」や「コンピテンシー」などの講義の際にポートフォリオの「キャリアデザイン」シートを使って自己分析させるなど（図 2）、副教材としても活用している。

徳島大学の「キャリア学習ポートフォリオ」は、すでに構築されていた「Web 教務事務システム」のポータルサイトに新たに「キャリア学習ポートフォリオ」を追加したもので、学生は、シラバス・履修登録・成績確認などを行う「Web 教務事務システム」と同じ ID 番号・パスワードでポートフォリオにアクセスすることができる。

ただし、現行の「Web 教務事務システム」は学外からのアクセスが難しく、「キャリア学習ポートフォリオ」についても、おもには共通教育センターや附属図書館、高度情報化基盤センター（現・情報化推進センター）などに設置されているパソコンからしかアクセスできないため使いづらく、授業評価アンケート（第Ⅲ部 3 を参照のこと）でも厳しい評価となっている。ただし、平成 24 年度中に新教務システムが稼働することから、平成 24 年 9 月以降は学内外のパソコンだけでなくスマートフォンなどからもアクセスが可能になる予定で、システムの改善が図られる。

次ページ以下では、「キャリア学習ポートフォリオ」の概要を紹介する。



図 1 キャリア学習ポートフォリオ学生ポータル 利用手引書

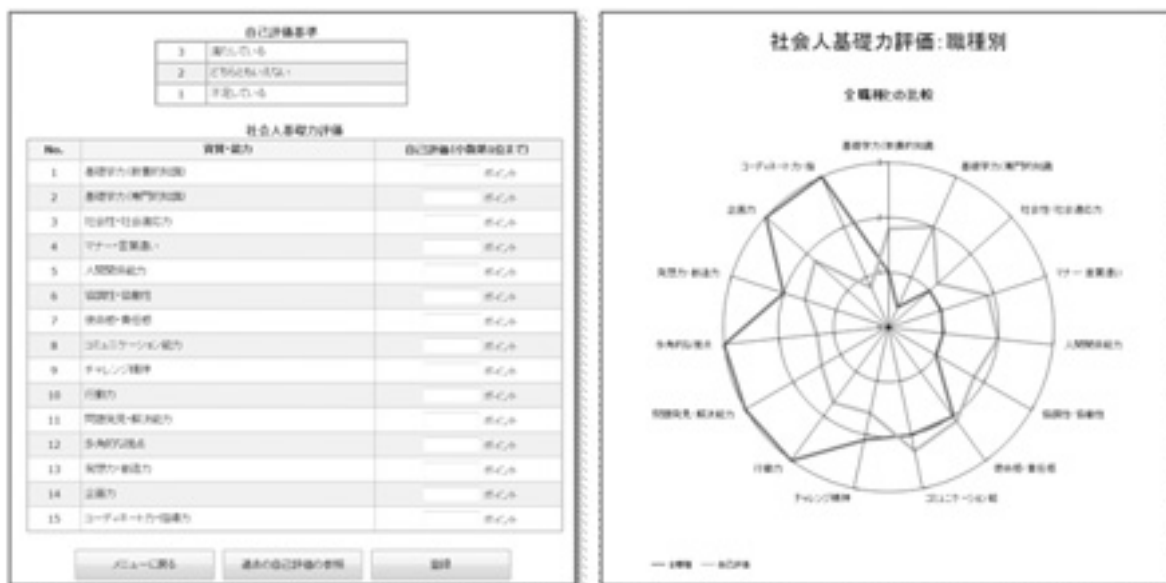


図 2 「社会人基礎力」の自己分析入力シートと標準値と入力値が比較できるレーダーチャート

2) キャリア学習ポートフォリオシステム 利用の手引き (『利用手引書』の再掲)

キャリア学習ポートフォリオシステムは、学生の皆さんのキャリア学習・就職支援を目的に、平成23年度より徳島大学(総合科学部・工学部)が導入したWebシステムで、皆さんが履修登録や成績照会などで利用する「教務システム」から入って閲覧・編集(入力・登録)することができます。データは学生の個別管理となりますが、個人情報保護の下に、キャリア教育関連授業や学生生活・就職支援等を担当する教職員が入力されたデータを参照させていただく場合もあります。

キャリア学習ポートフォリオシステムは、次の6つのページ(1~6)からなっており、画面上部の「メニューバー」から、それぞれのページを開くことができます。

1. トップページ

皆さんの就職活動を支援するページで、インターンシップ、就職ガイダンス・就職セミナーの案内情報、会社説明会・企業研究会の案内情報、公務員や教員の採用試験説明会の案内情報、企業等の求人情報などを検索することができます。

ただし、システムの関係から当面本ページに情報は掲載されていませんが、これらの情報は徳島大学HPの「就職・進路」ページもしくは就職支援センター(全学、共通教育4号館1階)のホームページ(<http://www.tokushima-u.ac.jp/article/0011231.html>)で閲覧・検索することができます。

2. キャリアデザイン

職場や地域社会において必要な「社会人基礎力」や、就業先で求められる「コンピテンシー」と呼ばれる高い成果を生み出す特徴的な行動特性について、自己評価を行うメニューです。項目別に数値を入力することで、レーダーチャート(グラフ)によって自己評価を確認することができます。

社会人基礎力とコンピテンシーについては、1年次生向けの「キャリアプラン入門Ⅰ」および「キャリアプラン入門Ⅱ」の授業の中で説明されますが、2年次生以上についても継続して活用することで自らの能力の推移を検証することができます。

なお、「社会人基礎力」や「コンピテンシー」の標準指標については、本書p.5の「社会人基礎力・コンピテンシーの数値の見方」をご覧ください。

3. 進路・就職情報

皆さんの就職・進学)、決定進路、就職活動記録、就職体験記などを新規登録、編集、閲覧、印刷するページです。基本的には、学生の皆さんが自主的に入力し、自らの就職活動に活用してもらうこととなりますが、皆さんの就職活動は後輩たちにとっても大いに参考になります。そこで、いくつかの項目については、後輩向けにWeb内で「公開」してよいかどうかをお尋ねしています。

4. 学習記録

1年次生の「キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱ」、2年次以降の「キャリアプランⅠ・Ⅱ・Ⅲ」および「短期インターンシップ」等の授業(キャリア教育科目)に際して活用するページです。

5. 課外活動記録

サークル活動、アルバイト、講演会・セミナー等への参加、ボランティア活動への参加、資格・検定試験、教員免許などに関わる登録ページです。基本的には、学生の皆さんが自主的に入力し、自らの就職活動に活用してもらうこととなります。とくに、3年次後半に始まる就職活動で求められるエントリーシートを作成する際に有用です。

6. 教職カルテ

教員免許取得を目指す学生のためのものですが、マニュアルについては別途作成の予定です。

※キャリア学習ポートフォリオシステムは、文部科学省の“大学生の就業力育成支援事業”に採択された徳島大学の「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」の下に平成22年度に構築されました。

3) 学習ポートフォリオの意味と主旨 (『利用手引書』の再掲)

1) 学習ポートフォリオ

ポートフォリオ(portfolio)の本来の意味は、「紙ばさみ」, 「折かばん」あるいは「携帯用書類入れ」等です。

「学習ポートフォリオ」とは、各学生が正課内外を問わず、対象とする学習の過程で得られた資料や素材等をどんどん挟み込んでいき、時系列的に一元管理することを意味します。一般的な学習ポートフォリオでは、例えば、新聞の記事や参考文献、学習計画、自分で調べたこと、気づきのメモ、試験の答案・模範解答等が管理対象となります。

このような学習ポートフォリオの利点は、学生が自らの活動や気づきについて、いつでも記録を残していくことができ、蓄積した履歴を振り返ってこれまでの活動を把握することにより、現状の再確認と自らの今後の方向性を考える大きな拠り所となることです。

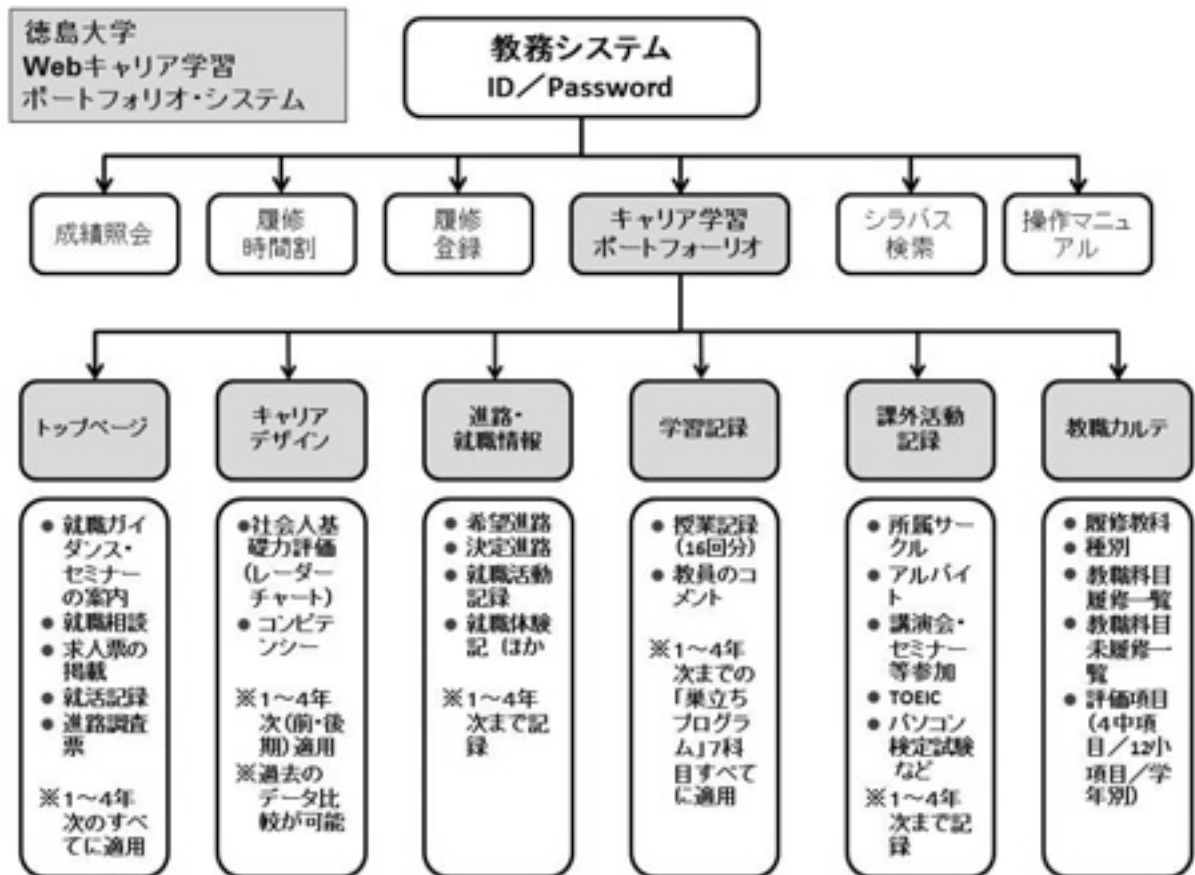
2) Web 学習ポートフォリオ (e 学習ポートフォリオ)

Web 学習ポートフォリオは、学生自らが「学士力」の向上や自身の「キャリア開発」を行うためのICTを活用した新しい教育支援ツールで

、学生の皆さんにとって次のようなメリットがあります。

- ① 場所・時間を問わず、学習内容等を簡単に記録・蓄積することができる。
- ② いつでも自分の学習内容等を確認することができるとともに、自己分析ならびに目標設定や目標に対する達成状況の把握が容易である。
- ③ 指導教員と情報を共有することができることから、迅速に適切なアドバイスを受けることができる。
- ④ 就職活動時のエントリーシートの作成を容易にする。

3) 徳島大学 Web キャリア学習ポートフォリオ・システムの構成



5 「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」HPの紹介

平成23年1月に徳島大学HPに「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」を立ち上げ、プログラムの取組内容・計画について周知を図るとともに、行事日程や活動報告、本プログラムについての問い合わせ先などもアップしています。

<http://www.tokushima-u.ac.jp/campus/education/shushokuryokuikuseishien.html>

The screenshot shows the homepage of the University of Tokushima. The main navigation bar includes 'University Introduction', 'Faculty/Department/Campus', 'Research/Industry Collaboration', 'Social Contribution/International Exchange', 'Education/Student Life', 'Career/Path', and 'Admission Information'. The 'Education/Student Life' section is highlighted, and a sub-menu lists various topics like 'Admission Information', 'For Students/Parents', 'For Graduates', etc. The main content area features a banner for the 'Self-Initiated Career Advancement Program' with a list of links: 'Introduction', 'Program Content', and 'Program Plan'. Below this, there is a section for 'Information about the Program' with specific dates and events, such as a symposium on March 2, 2024, and a lecture on October 7, 2023.



The table provides a detailed overview of the 'Self-Initiated Career Advancement Program' activities. It is organized into two main columns: 'Year' and 'Program Content'. The 'Year' column lists '1st Year', '2nd Year', '3rd Year', and '4th Year'. The 'Program Content' column lists the specific activities for each year, such as 'Career Planning and Career Development' (1st year), 'Career Planning and Career Development' (2nd year), 'Career Planning and Career Development' (3rd year), and 'Career Planning and Career Development' (4th year). The table also includes a section for 'Information about the Program' and 'Contact Information'.

年次	実施内容	プログラム実施内容
1年次	キャリアデザイン入門 (履修1単位)	大学生活と人生設計 ・ 就職活動 (企業と学生) (履修1単位) ・ キャリアデザイン入門 (履修1単位) ・ 就職活動 (企業と学生) (履修1単位)
2年次	キャリアデザイン入門 (履修1単位)	キャリアデザイン入門 (履修1単位) ・ 就職活動 (企業と学生) (履修1単位) ・ キャリアデザイン入門 (履修1単位)
3年次	キャリアデザイン入門 (履修1単位)	就職活動の基礎と企業選定情報 ・ キャリアデザイン入門 (履修1単位) ・ キャリアデザイン入門 (履修1単位)
4年次	キャリアデザイン入門 (履修1単位)	就職活動の基礎と方法 ・ 就職活動 (企業と学生) (履修1単位) ・ 就職活動 (企業と学生) (履修1単位)
卒業	就職活動 (履修1単位)	就職活動 (履修1単位) ・ 就職活動 (企業と学生) (履修1単位) ・ 就職活動 (企業と学生) (履修1単位)

6 進路・就職活動・キャリア教育に関するアンケート調査結果【総合科学部】

2008 年秋のリーマンショック以降雇用環境が悪化し、卒業予定の皆さんを取りまく環境も大変厳しさを増したかと思えます。こうした状況は今後も続くものと思われまます。そこで、総合科学部就職委員会では、皆さんの後に続く後輩達のためにも、皆さんの率直なご意見を伺い、そうした意見を就職活動支援に活かしていきたいと思っています。アンケートは無記名方式ですので、回答をよろしくお願いします。

なお、就職支援センターでは、卒業後も皆さんの就職支援を行っています。情報提供・就職相談などをご希望の方は、就職支援センター（Tel.088-656-7635）までご連絡下さい。

2011 年 2 月実施 総合科学部就職委員会

※回答に際しては、選択肢番号に○印、[] 内は自由記述。

質問 1 学科 1 人間社会学科 121 2 自然システム学科 45

質問 2 卒業後の貴方の進路は？ 1 進学（専門学校を含む） 34 2 就職 102 3 採用待ち 6 4 未定 23

<進学される方へ>

質問 3 進学先は？ 1 大学院 31 2 他大学 0 3 専門学校 2 4 未定 0 5 その他 0 []

質問 4 当初から進学希望でしたか

1 はい 15 2 迷っていたが進学にした 14 3 就活が厳しく進学に変更 4 4 その他 0 []

質問 5 <大学院に進学される方へ> どの大学院へ進学しますか？

1 本学大学院総合科学教育部 17 2 大学院総合科学教育部以外の大学院 10 3 まだ未定 0

➤ 1) 上記進学先で「2」と回答した方に、なぜ大学院総合科学教育部に進学しなかったかをお尋ねします。

1 希望の専門分野がなかったため 1 2 よりよい研究環境が望めるため 7 3 実家に近いため 2

4 本学大学院総合科学教育部では教員資格の専修免許が取得できないため 1 5 その他 1 []

質問 6 <専門学校に進学される方へ> どのような分野の学校で、就学期間は？

[医療・リハビリ分野] 分野/就学期間 [2] 年, [最適化?分野] 分野/就学期間 [2] 年,

<就職活動を行った方へ> 進学される方でも就職活動を行った方は回答してください

質問 7 貴方は、自分の就職活動は十分できたと思っていますか？

1 十分できた 54 2 もっと積極的に活動すべきだった 39 3 努力が足りなかった 35 4 反省している 7

質問 8 就職活動で困ったことは？（複数回答可）

1 説明会等への参加旅費 90 2 時間的な制約 69 3 授業（試験を含む）とのバッティング 25

4 大学・教員の支援が受けられなかった 4 5 採用側の対応（カウ・いやがらせなど） 2

6 相談相手がいなかった 8 7 希望する情報の入手が困難だった 16

8 公務員・教員対策が十分ではなかった 20 9 とくにない 16 10 その他 5 []

質問 9 就職支援室主催の各種就職セミナー・ガイダンス・説明会に参加しましたか？

1 積極的に参加した 41 2 時々参加した 57 3 あまり参加しなかった 26 4 全く参加しなかった 15

質問 10 就職支援室のメール登録をしていますか？ 1 している 113 2 していない 18

➤ 1) 上記「2 していない」と回答した方へ、その理由を教えてください

1 登録制度を知らなかった 8 2 めんどく 3 3 ウザイ 1 4 その他 3 []

質問 11 就職支援室に備えている求人票（綴じ込みファイル）を見に行ったことがありますか？

1 何度も利用した 10 2 時々利用した 36 3 あまり利用しなかった 50 4 行かなかった 37 5 知らなかった 37

質問 12 就職支援室の求人情報検索システムを利用したことは？ 1 ある 65 2 ない 72

質問13 就職ガイダンス・セミナー・説明会等の案内ポスターや求人票はチェックしていましたか？

1 よく確認していた 31 2 時々見た 74 3 あまり見なかった 28 4 知らなかった 3

質問14 就職活動についてよく相談した人は？（3つまで回答可）

1 家族・親族 75 2 指導教員 29 3 コースの就職委員 1 4 その他の教員 4

5 大学の先輩・友人 98 6 就職支援室の就職相談員 13 7 就職支援室の職員 5

8 就職情報会社（社員・メール） 2 9 会社の人事担当者（説明会などで） 5 10 会社にいる本学卒業者 4

11 とくに相談者はいなかった 9 12 就職情報誌・インターネットを参考にした 27 13 その他 9 []

質問15 徳大主催の企業合同説明会に参加しましたか？ 1 した 97 2 しない 37

質問16 就職情報会社（リクナビなど）主催の企業合同説明会に参加しましたか？ 1 した 105 2 しない 29

質問17 企業主催の説明会に参加しましたか？

1 積極的に参加した 56 2 時々参加した 42 3 あまり参加しなかった 11 4 まったく参加しなかった 25

質問18 ハローワーク（県内外）を活用しましたか？ 1 ある 24 2 ない 109

質問19 大学生協の公務員講座を受講しましたか？ 1 受講した 37 2 受講していない 97

質問20 学外（専門学校など）の資格・キャリア講座を受講していましたか 1 していた 6 2 しなかった 128

質問21 学部教育におけるキャリア教育の充実を望みますか？

1 大いに望む 29 2 もう少し充実して欲しい 64 3 キャリア教育よりも専門教育の充実を望む 22

4 これ以上忙しくなるのは望まない 14 5 その他 14 []

質問22 もしキャリア教育・資格講座等の充実を望むとすればどんな形ですか？

1 学部授業におけるキャリア教育の充実 34 2 授業外のキャリア・資格講座の開設 46

3 就職支援室のさらなる充実 36 4 その他 4 []

質問23 どんな分野のキャリア教育を望みますか？ [情報・PC, 語学, 会計・簿記, マネジメント, 公務員他] 分野

質問24 学生時代に資格などを取得しておけばよかったと思いますか 1 はい 98 2 いいえ 33

➤ 上記質問で「1 はい」の回答者の方で、仮に学生時代に取得しておけばよかったと思う資格はどういうものですか？（下記リストは某社の人気30位を参考に、学生でも取得可能なものを選択）（3つまで回答可）

1 医療事務 20 2 行政書士 8 3 ファイナンシャルプランナー 8 4 簿記3級 31 5 実用ボールペン字 9

6 社会保険労務士 0 7 宅建取引主任者 3 8 調剤薬局事務 6 9 カラーコーディネーター 6

10 マイクロソフト認定資格 11 11 介護事務 2 12 インテリアコーディネーター 2 13 歯科助手 0

14 司法書士 0 15 旅行管理者 6 16 中小企業診断士 0 17 簿記2級 21 18 第二種電気工事士 0

19 通関士 1 20 TOEIC(R)テスト 40 21 マンション管理士主任者 2 22 福祉樹幹強コーディネーター 0

23 生活心理学 2 24 販売士3級 3 25 危険物取扱者 3 26 基本情報技術者 2 27 気象予報士 0

28 初級シスアド 0 29 英語検定 (34級～準2級) 20 30 その他 4 []

<就職内定者にお聞きします>

質問25 あなたの内定した業種は (3～7は民間企業内定者)

1 公務員 20 2 教員 4 3 総合職 22 4 一般職 14 5 営業職 13 6 事務職 17 7 研究職 0 8 その他 5

質問26 希望した業種でしたか？ 1 はい 79 2 いいえ 17

質問27 貴方の内定先は何番目くらいの希望でしたか？ [44/1, 14/2, 15/3, 3/4, 6/5, 5/6 番以下] 番目

質問28 内定が最初に確定したのは何月頃ですか？ [] 月 4月17名, 5月15名, 6月11名,

7月4名, 8月10名, 9月6名, 10月8名, 11月1名, 12月10名, 1月0名, 2月5名, 3月11名

質問29 最初の内定後も就職活動を続けましたか 1 続けた 44 2 やめた 52

質問30 貴方の就職（就活）満足度は [平均 4.0 (回答数96)] ←0～5点で、小数点第一位まで記入

7 平成22年度事業外部評価委員会報告

1 「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」外部評価委員会議事要録

1) 日 時 平成23年7月26日(火) 18時00分～21時30分

2) 場 所 共通教育5号館会議室

3) 出席者(敬称略)

委員 総合科学部渭水会会長 佐藤 勉

総合科学部振興会副会長 木内 晃

工学部後援会会長 港 忠徳

工学部工業会理事長 美馬 敬正

徳島県商工会議所副会頭 本久ミドリ

県立広島大学総合教育センター教授 原田 淳

本学 教育担当副学長・就職支援センター長 和田 眞

就職支援センター副センター長・大学院ソシオ・アーツ・アント[®]・サイエンス研究部教授 平井 松午

大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部教授 成行 義文

就職支援センター 特任講師 田中 徳一

学務部長 木之下英二

学生生活支援課長 川上 哲

学生生活支援課課長補佐 松尾 誠治

学生生活支援課長の進行により、まず 和田教育担当副学長から開会挨拶がなされ、続いて出席者の自己紹介が行われた。

学生生活支援課長から配付資料の確認がなされた後、議事に入った。

4) 議 題

① 委員長及び副委員長の選出について

学生生活支援課長から、資料1の「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」外部評価委員会要項第5条に基づき、委員の互選より委員長及び副委員長を選出願いたい旨の説明の後、木内委員から委員長に原田委員、副委員長に本久委員を推薦する意見があり、審議の結果了承された。

② 審議事項について

○ 就業力育成支援事業について

平井就職支援副センター長から、資料2・3・4により本事業の取組内容、取組組織及び就職支援センター規則について説明の後、本事業に関する質疑応答、最近の学生気質に関すること、企業人として期待すること等について、意見交換がなされた。

○ 平成22年度補助事業実施計画に基づく業務の進捗状況について

平井就職支援副センター長及び田中特任講師から資料5・6及びスクリーンによるプレゼンにより、平成22年度補助事業実施計画及び業務の進捗状況について説明の後、委員長から、

審議事項に移る前に、先に各委員に評価をお願いしたい旨意見があり、了承された。

なお、評価結果は集計して最後に報告することとなった。

○ 平成23年度実施計画（案）について

平井就職支援副センター長及び田中特任講師から資料7により、平成23年度補助事業実施計画について説明があった。

③ 評価並びに講評結果について

委員長から、各委員に評価シートにより評価いただいた結果について、各評価項目毎の平均点及び全項目の平均点（3.72）について報告があった。

なお、講評については、後日まとめて委員長から報告することとなった。



写真1 第1回外部評価委員会

2 「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」外部評価委員の評価結果

1) 評価結果 評価点は、「計画どおり進んでいる」を5、「進捗がみられず大いに改善を要する」を1とする5段階評価。

① 就職支援組織の改組（就職支援センターの設置）	4.3
② 各職種の所要能力知識及びコンピテンシーに関する企業へのアンケート調査の実施	4.0
③ 学生による自主的就職活動組織の編成	4.0
④ キャリアコーディネーター、キャリアサポーターの採用	4.2
⑤ Web版ポートフォリオ作成システムの構築	3.8
⑥ u-Learning教材等を含む授業教材の開発・作成	3.2
⑦ 本学卒業生の採用状況・採用満足度に関する企業へのアンケート調査の実施	2.5
⑧ 就業力評価アンケート（学生による自己目標達成度評価）	3.7
⑨ 自己点検・外部評価の実施	3.8
⑩ 就業力に関わる図書の購入	3.7

総合評価(平均) 3.7

2) 委員長講評

採択されて5ヶ月間で就職支援組織の改組・拡充、Web版ポートフォリオ作成システムの構築、キャリア教育科目開講の準備など充実した取り組みをしている点が評価できる。評価項目のうち唯一就業力評価アンケートが実施されていないのは残念であるが、すでに準備ができているとのことであり、早急に実施してもらいたい。平成23年度からキャリア教育科目を開講し、講義の中でもWeb版ポートフォリオを活用する計画となっており、今後の展開に期待したい。Web版ポートフォリオの活用では、学生の自己評価に対するフィードバックが重要となると思われる。

徳島大学「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」外部評価委員会委員長

原 田 淳

第Ⅲ部

平成23年度「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」の取組内容

1 平成23年度大学改革推進等補助金（大学生の就業力育成支援事業）調書

本調書は、平成23年度大学改革推進等補助金（大学生の就業力育成支援事業）の交付（内定）を行うにあたり参考とするために提出していただくものであり、取組の申請書等における記載事項との整合性にも留意して記入して下さい。

1. 大学等名／設置者名	徳島大学 / 国立大学法人徳島大学
2. 事業名	大学生の就業力育成支援事業
3. 取組名称	自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム
4. 選定年度	平成22年度
5. 事業推進代表者／ 事業推進責任者	事業推進代表者 学長・香川 征 事業推進責任者 副学長（教育担当理事）・和田 真
6. 事務担当者	主担当 学務部・学生生活支援課長・川上 哲 TEL 088-656-7077 FAX 088-656-7636
※ 内容等の問い合わせ に適切に対応できる事 務担当の方で、主担当、 副担当を必ず2名記載 して下さい。	副担当 学務部・教育支援課長・出川隆富 TEL 088-656-9204 FAX 088-656-7292
7. 選定取組の概要（400字以内）	本取組の目的は、徳島大学における5学部のうち、幅広い職業人養成に携わる総合科学部ならびに工学部を対象として、1)初年次教育における職業観の涵養、2)Web版ポートフォリオの活用と主体的取組、3)短期インターンシップと実践的な能力の獲得、4)社会的・職業的自立への準備、の4つの視点から、4年一貫のキャリア教育体系となる「巣立ちプログラム」を全学組織である「就職支援センター」主導の下に実践し、学生の社会人基礎力・就業力の向上を図ることにある。
8. 補助事業の目的・必要性（学生の就業力育成の観点から記入するようにして下さい。）	(1) 全体 本学の総合科学部・工学部では、将来に不安を感じている学生が少なくない。これは学生が将来に対する明確な職業観やキャリアデザインが持っていないためでもある。それゆえ、本取組の「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」を実施・展開することで、学生の社会人基礎力・就業力を向上させることが必要である。 (2) 本年度 本取組において初年度となる本年度（平成23年度）は、本取組の実施部局となっている総合科学部および工学部において、それぞれ前期に「キャリアプラン入門Ⅰ」、後期に「キャリアプラン入門Ⅱ」を開講する。いずれの科目も、両学部における必修の学部共通科目と位置づけられている。これらの授業では、新規に立ち上げたWeb版ポートフォリオも活用する。
9. 本年度の補助事業実施計画（選定された取組を実施するためのスケジュールを箇条書きで記入して下さい。なお、記入に当たっては、備品の購入等、経費の支出計画ではなく、学生の就業力育成に関する取組の計画を記入して下さい。）	① 4月 特任教員・非常勤職員の採用 ② 4月 「巣立ちプログラム」1年次向け「キャリアプラン入門Ⅰ」の開講 ③ 4月 Web版ポートフォリオの立ち上げ ④ 8月 授業評価アンケートの実施 ⑤ 8月 Web版ポートフォリオのチェック・指導 ⑥ 10月 「巣立ちプログラム」1年次向け「キャリアプラン入門Ⅱ」の開講 ⑦ 2月 授業評価アンケートの実施 ⑧ 2月 Web版ポートフォリオのチェック・指導

- ⑨ 2月 就業力評価アンケート（4年生対象）の実施
- ⑩ 3月 就業力検証シンポジウムならびに外部評価委員会の開催
- ⑪ 3月 取組成果報告書の作成

10. 補助事業の内容（選定された取組の内容を上記 9の実実施計画と対応させるよう、箇条書きで記入して下さい。なお、記入にあたっては、学生の就業力育成として行う大学の取組について具体的に記載して下さい。）

①特任教員・非常勤職員の採用

本取組では、新規に1年次向けに「キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱ」（総合科学部1クラス、工学部3クラス）、2年次以降に「キャリアプランⅠ・Ⅱ・Ⅲ」および「短期インターンシップ」を各1クラス開講する予定である。これらの授業をコーディネートするとともに授業の一部を担当するキャリア教育専任として特任教員および技術系職員（非常勤）を新たに各1名採用する。

②「巣立ちプログラム」1年次向け「キャリアプラン入門Ⅰ」の開講

「キャリアプラン入門Ⅰ」（前期）は、総合科学部・工学部ともに必修の学部共通科目として位置づけられているキャリア教育科目である。総合科学部は「大学と社会」、工学部は「技術者と社会」をテーマに、学生自らがキャリアデザインの重要性を認識させる授業が展開される。その中でも、Web版ポートフォリオも活用される。

③Web版ポートフォリオの立ち上げ

学生の自律的な学習活動や社会活動、キャリアデザインを支援するシステムとして本学が初めて導入するもので、現行の教務システムと連動して4月より運用する。本取組「巣立ちプログラム」の進行に応じて設計され、キャリア学習履歴、学生生活記録、取得資格等に関する情報のみならず、社会人として必要な基本知識や技能、マナー、ならびにコンピテンシー（職業的自立者に求められる行動特性）を自らチェックできる。1年次向け「キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱ」の授業でも活用するだけでなく、在学生も利用できる。

④授業評価アンケートの実施

「キャリアプラン入門Ⅰ」（前期）の最終回に、全受講者（全1年生）を対象に授業内容に関する授業評価アンケートを実施し、授業改善のための資料とする。

⑤Web版ポートフォリオのチェック・指導

「キャリアプラン入門Ⅰ」（前期）の授業では、Web版ポートフォリオのキャリア学習履歴シートを活用して履修状況を把握し、学生を指導する。また、学生が自らの社会人基礎力を把握するよう指導する。

⑥「巣立ちプログラム」1年次向け「キャリアプラン入門Ⅱ」の開講

「キャリアプラン入門Ⅱ」（後期）についても、総合科学部・工学部ともに必修の学部共通科目として位置づけられているキャリア教育科目である。両学部はそれぞれ個別に授業を展開するが、学生が自らの適性能力やコンピテンシーにもとづいて、自らのキャリアデザインを描けるように指導する。また、授業ではWeb版ポートフォリオも活用される。

⑦授業評価アンケートの実施

「キャリアプラン入門Ⅱ」（後期）の最終回に、全受講者（全1年生）を対象に授業内容に関する授業評価アンケートを実施し、授業改善のための資料とする。

⑧Web版ポートフォリオのチェック・指導

「キャリアプラン入門Ⅱ」（後期）の授業では、Web版ポートフォリオのキャリア学習履歴シートを活用して履修状況を把握し、学生を指導する。また、学生が自らのコンピテンシーを把握するよう指導する。

⑨就業力評価アンケート（4年生対象）の実施

学生の就業力は、希望する業種や職種、学生の能力や到達目標などが異なることから一律的な判断はできない。そこで卒業時に実施する就業力評価アンケートにおいて、各自のweb版ポートフォリオに設定した自己目標に対する達成度を検証する自己評価システムとしてアンケート調査を実施する。最終的には平成26年度以降における本格実施（それまでは段階的に実施）になるが、本年度は試行実施を行い、アンケート項目設定のための検討資料とする。

⑩就業力検証シンポジウムならびに外部評価委員会の開催

平成23年度は本取組の実質的な初年度となることから、授業シラバスや授業評価アンケート結果、Web版ポートフォリオなどの各種データをもとに、前後期に実施した「キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱ」についての検証シンポジウムを開催する。同シンポジウムにはキャリア教育の専門家や外部評価委員にも参加してもらう。これとは別に、外部評価委員会を開催して本取組についての外部意見・評価を集約し、次年度以降の授業展開に活かす。

⑪取組成果報告書の作成

本年度の授業内容および各種取組の成果については報告書を作成するとともに、専用ホームページ上でも公開する。

これらを通じて、学生の社会的・職業的自立につながる就業力の強化を図ることが、本補助事業の内容である。

2 平成23年度開講科目の紹介

1) 前期 総合科学部「キャリアプラン入門Ⅰ」

1 シラバス・授業内容

【授業担当者】 葭森健介・中嶋 信・石川榮作・中川秀幸・大淵 朗・田中徳一・平井松午

【開講日時】 水曜日 5・6 講時 (12:50~14:20)

【講義室】 工学部共通講義棟 6F 創生学習スタジオ

【授業目的】

大学ならびに総合科学部を取巻く今日の社会環境、および大学生に求められる社会人基礎力やキャリアデザインについて講義し、初年次学生が自律的で有意義な学生生活を構築するとともに、将来の就職について考える上で必要な素養と能力を養う。また web 版キャリア学習ポートフォリオの作成を開始する。

【授業概要】

今年度は以下の3点を主題とする。

①総合科学部とはどんな学部か? 総合科学部教員により授業ガイダンスおよび大学・学部・学習方法について講義する。それによって、総合科学部の置かれている位置を理解し、総合科学部でどのように学んだらよいかをも考えてもらう。

②キャリアデザイン GP 特任教授により社会人基礎力、キャリアデザインや Web 版キャリア学習ポートフォリオの意義と作成方法に関する説明がある。③大学生から社会人になるということ 学部教員および非常勤講師等がそれぞれの立場から、適宜、企業・社会等において求められる人間像について講義を行いエンプロイアビリティを高めるということについて学習してもらう。また受講者はそれを踏まえて自らのキャリアデザイン・ライフプランを作成する。

最終回までに授業で習った基本的な事に関するレポートが二回ないし三回ほど課せられる予定である。なお各自の学習内容の要点および課題レポート等を Web 版キャリア学習ポートフォリオに記入する練習も適宜課せられることになる。

【到達目標】

大学の現実と課題を各自が理解し、大学における真摯な学び(広い教養と専門的力の養成)の重要性を自覚し、今後4年間の学習計画を立てる。

【キーワード】

大学、総合科学、地域社会、キャリアデザイン、ポートフォリオ、職業

【授業計画】

- 1 授業の進め方について<大淵>(4月13日)
- 2 総合科学部で何を学ぶ総合科学部の長所・短所<葭森>(4月20日)
- 3 大学と地域社会のコラボレーション<中嶋>(4月27日)
- 4 高校と大学での学びの違い・高校の勉強と総合科学部での学び<卒業生:中川>(5月11日)
- 5 読書と人生<石川>(5月18日)
- 6 レポートの書き方、評価のされ方およびネットの使い方について<葭森・大淵>(5月25日)
- 7 総合科学部から社会へ大学生から社会人になるということ<中川秀幸>(6月1日)
- 8 大学におけるキャリア教育と「巣立ちプログラム」<平井>(6月8日)
- 9 Web ポートフォリオの利用方法<田中>(6月15日)
- 10 求められる社会人基礎力<田中>(6月22日)
- 11 ビジネスコミュニケーション<山野明美>(6月29日)
- 12 ネットワークと大学<卒業生:森本哲史>(7月6日)
- 13 地域産業と職業<田村耕一>(7月13日)
- 14 大学と企業 次代の若者へ(植田貴世子)(7月20日)
- 15 全体のまとめ(総括授業に当たる)

【履修上の注意】

各講師の授業には全て参加し、レポートを提出すること。討論・発表への自発的参加が重要である。詳細な授業計画等はホームページに掲載する予定。

【成績評価】

評価は討論の参加度合い、レポートにより行う。出席状況については、授業時の点呼や Web 版ポートフォリオのショートレポート(200 字程度)で確認する

2 授業取組の概要

平成 23 年 4 月から総合科学部後期「キャリアプラン入門 I」が開講された。対象は 270 名で全 16 コマはすべて合同講義によるキャリアプラン入門 I を実施した。第 1 回は授業ガイダンス，第 15 回は授業の総括。毎回，学内外の講師によるオムニバス形式の授業を展開した。

第 2 回・第 3 回 総合科学部の社会的使命

総合科学部の教育目標や総合科学部の果たす役割について，学部専任教員が講義を行った。

第 4 回～第 7 回 大学での学び方

大学における受講方法，主体的学習のあり方，読書の重要性やレポートの書き方などについての基礎的な講義が行われた。



写真 1 キャリア教育と「巣立ちプログラム」

第 8 回～第 14 回 キャリアガイダンス講座

それぞれの講義（講演）において，大学生の就職環境を取り巻く社会状況と大学におけるキャリア教育，新たに導入された「巣立ちプログラム」の紹介（写真 1），平成 23 年度から徳島大学で導入された Web キャリア学習ポートフォリオの利用方法ならびに社会人基礎力の概念，ビジネスコミュニケーションの必要性，ネットワーク社会のあり方（写真 2），地域産業の現状と新たな地域活性化策（写真 3）などについての授業が展開された。



写真 2 ネットワークと大学



写真 3 地域産業と職業

2) 前期 工学部「キャリアプラン入門Ⅰ」

1 シラバス・授業内容

【授業担当者】 田中徳一

【開講日時】 月曜日 5・6 講時 (8:40~10:10), 木曜日・金曜日 9・10 講時 (16:20~17:50)

【講義室】 工学部共通講義棟 6F 創生学習スタジオ

【授業目的】

技術者を取巻く今日の社会環境について講義し、技術者を目指す新入生諸君が自立的で有意義な学生生活を構築するとともに将来の就職について考える上で必要な素養と能力を養う。また web 版キャリア学習ポートフォリオの作成を開始する。

【授業概要】

まず特任教員により、授業ガイダンスおよび web 版キャリア学習ポートフォリオの意義と作成方法に関する説明がある。次いで、特任教員、各学科関連教員および非常勤講師等が、順次、工学、技術者、企業、社会等ならびにそれらの関係に関する講義を行う。また受講者はそれらを踏まえて自らの夢を描くとともに技術者としてのライフプランを作成する。第 8,12,15 回の授業時にそれぞれレポート課題が出される。

なお各回の学習内容の要点等は web 版キャリア学習ポートフォリオに記入し、授業終了後に学科教員のチェックを受ける。

【到達目標】

技術者と社会の係わりについて理解するとともに、キャリア学習ポートフォリオ作成を通して自らのキャリアプランを自主的に進めることができる。

【キーワード】

キャリア学習ポートフォリオ、社会人基礎力、技術者、社会、企業、ライフプラン

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 キャリア学習ポートフォリオ利用法
- 3 社会人基礎力とは
- 4 新聞を使って「考え抜く力」を養う
- 5 ビジネスコミュニケーション
- 6 技術者の論理
- 7 技術者と企業
- 8 企業と使命/レポート 1
- 9 社会の仕組み
- 10 企業を取り巻く環境の変化(1)
- 11 企業を取り巻く環境の変化(2)
- 12 企業とその戦略/レポート 2
- 13 技術者としての先輩の話を聞こう
- 14 技術者としての自らの夢を語ろう
- 15 技術者としてのライフプランを作ろう/レポート 3

【履修上の注意】

必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。

【成績評価】

到達目標の達成度を、3 回分のレポートとキャリア学習ポートフォリオの進捗状況により評価する。各レポート評点 (70 点満点) の平均点とポートフォリオ評点 (30 点満点) の合計が 60 点以上を合格とする。

2 授業取組の概要

平成 23 年 4 月から工学部「キャリアプラン入門 I」が開講された。対象は 623 名で、3 クラス (G1 : 220 名, G2 : 205 名, G3 : 198 名) に分けて全 15 コマを実施した。このうち、3 コマについての授業の様子を抜粋して紹介する。

第 3 回「求められる社会人基礎力」

田中特任講師により社会で求められる社会人基礎力の能力と意義についての講義があった。経済産業省が作成した職場や地域社会の中で多様な人々と仕事をしていくために必要な 3 つの力と 1 2 の要素について、具体的な事例を交えながら内容の説明が行われた。また、アンケート調査による企業・団体で求められる社会人基礎力の能力について、自らの能力と比較するための Web ポートフォリオの利用方法についての説明を行った。また全員に自らの社会人基礎力評価について Web ポートフォリオへの入力を義務づけた。



写真 1 求められる社会人基礎力

第 7 回「企業と使命」

非常勤講師の国分先生により、企業に課されている「使命」についての講義が行われた。企業は様々なステークホルダーとの信頼関係を構築し、自らの事業活動を行っていくうえで、果たさなければならない多くの責任を負っている。消費者に対しては、高品質な製品やサービスを提供し、従業員には安全で働きやすい職場環境や雇用の安定が提供されなければならない。企業がその活動を続けていくうえで果たさなければならない「企業とその使命」についての講義が行われた。



写真 2 企業と使命

第 10~12 回 招聘講座

学生が将来の職業を具体的にイメージできるように、多くの企業団体から外部講師を招聘し学科別に関連する授業を行った。以下の表が協力企業・団体である。

No.	協力企業・団体
1	徳島経済研究所
2	日亜化学工業株式会社
3	四国化工機株式会社
4	徳島県庁
5	株式会社大塚製薬工場
6	大塚製薬株式会社
7	大鵬薬品工業株式会社
8	四国電力株式会社
9	四国建設コンサルタント(株)
10	富田製薬株式会社
11	大塚テクノ株式会社
12	スタンシステム株式会社
13	株式会社姫野組

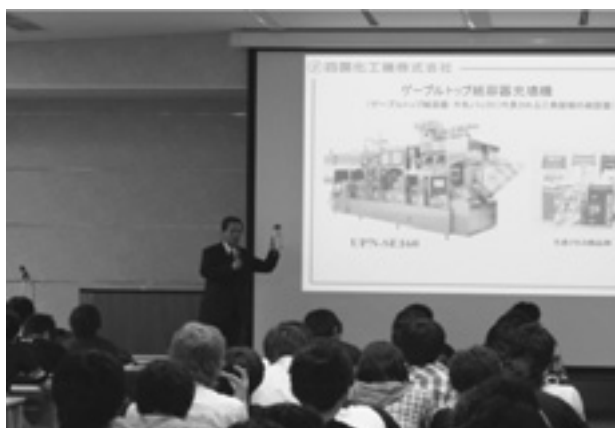


写真 3 企業取り巻く環境の変化

3) 後期 総合科学部「キャリアプラン入門Ⅱ」

1 シラバス・授業内容

【授業担当者】 田中徳一・平井松午

【開講日時】 金曜日 1・2 講時 (8:40~10:10)

【講義室】 工学部共通講義棟 6F 創生学習スタジオ

【授業目的】

将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

【授業概要】

前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

【到達目標】

誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。

【キーワード】

キャリアプラン、ライフプラン、適性把握、コンピテンシー

【授業計画】

- 1 授業ガイダンス（キャリア教育）
- 2 適性把握演習(テスト実施)
- 3 キャリアプラン体験講座(1.考え方)
- 4 キャリアプラン体験講座(2.事例紹介)
- 5 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える
- 6 適性把握演習(テスト解説)
- 7 コンピテンシーの意義と考え方
- 8 学科担当教員による基礎学力養成講座（学科単位の少人数ゼミに分属）
- 9 学科担当教員による基礎学力養成講座（学科単位の少人数ゼミに分属）
- 10 学科担当教員による基礎学力養成講座（学科単位の少人数ゼミに分属）
- 11 学科担当教員による基礎学力養成講座（学科単位の少人数ゼミに分属）
- 12 学科担当教員による基礎学力養成講座（学科単位の少人数ゼミに分属）
- 13 学科担当教員による基礎学力養成講座（学科単位の少人数ゼミに分属）
- 14 学科担当教員による基礎学力養成講座（学科単位の少人数ゼミに分属）
- 15 学科担当教員による基礎学力養成講座（学科単位の少人数ゼミに分属）
- 16 総括授業

【履修上の注意】

必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。

【成績評価】

前半7回は、出席（レポートの提出状況など）や受講態度による。また、Web版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。

2 授業取組の概要

平成 23 年 10 月から総合科学部後期「キャリアプラン入門Ⅱ」が開講された。対象は 270 名で全 16 コマのうち前半 7 コマについては合同講義によるキャリアプラン入門Ⅱを実施した。うち 3 コマについての授業の様子を抜粋して紹介する。

第 2 回・第 6 回 適性把握演習

「あなたは学生生活で何を学び、何をやってみたいですか？将来どのような仕事に就きたいですか」このような自己発見を目的とし、基礎学力測定、自己分析、大学進学目的を問うアンケートなど、様々な角度からの調査分析が行われ、自己発見レポートとして結果報告の解説が行われた。同時に総合科学部独自の追加設問も実施され、それらの結果は、基礎データとして各自の Web ポートフォリオへ取り込みができるようになっている。また、この結果は第 7 回「コンピテンシー」の講義と合わせて、「自らの強みと弱み」という課題で、ポートフォリオのレポートコメント欄への入力を義務付けた。



写真 1 適性把握演習（解説）

第 3 回～第 5 回 キャリアプラン体験講座

就職支援センター・キャリアカウンセラーの山野講師による「キャリアプラン演習」が 3 回にわたり行われた。初めに、キャリアプランの基本として、自分自身を分析し自分の人生は自分で切り開くことの大切さについての講義があった。

キャリア教育推進室プラン演習では、キャリアプラン作成に必要となる「生きがい」「職業に関する価値観」など、具体的な事例を交えながらの講義であった。第 5 回目の講義はキャリアプラン作成演習が行われ、作成後は成果物としてレポートの提出を義務付けられた。



写真 2 キャリアプラン体験講座

第 7 回 コンピテンシーの意義と考え方

田中特任講師による「コンピテンシーの意義と考え方」の講義が実施された。

現在日本企業の 7 割が「年功主義」から脱却をし、成果主義へと移行している。このような中で、企業は社員の人事考課だけでなく採用試験にも「コンピテンシー（行動特性）」の考え方を取り入れている。そして、高い業績を上げているハイパフォーマーの行動特性を参考に独自のモデルを設定する企業が増えている。これまでの有名大学を優秀な生成で卒業しただけでは十分な人材と評価されなくなっており、成果を生み出すための「行動特性」が問われている。



写真 3 コンピテンシーの意義と考え方

4) 後期 工学部「キャリアプラン入門Ⅱ」

1 シラバス・授業内容

【授業担当者】 田中徳一

【開講日時】 火曜日 3・4 講時 (10:25~11:55), 水曜日・木曜日 9・10 講時 (16:20~17:50)

【講義室】 工学部共通講義棟 6F 創生学習スタジオ

【授業目的】

各種職業について知るとともに自らの立ち位置ならびに適性を把握する。また、キャリアプランおよびライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と能力を養う。

【授業概要】

まずいろいろな職業（業種と職種）について学び、次いで各自の適正ならびに基礎学力把握演習により現時点における各自の適正と基礎学力を把握する。また経済新聞から企業の実力ならびに戦略等の読み取り方を学ぶとともにキャリアプラン作成を体験する。さらに各業種・職種のコンピテンシーを知り、Web 版キャリア学習ポートフォリオに各自が目標とするコンピテンシーを設定する。最後に総括とともに、2年次以降のキャリア教育科目に関する説明が行われる。なお、第 7・12 回の授業時にそれぞれレポート課題が出される。

各回の学習内容の要点等を web 版キャリア学習ポートフォリオに記入し、授業終了後に学科教員のチェックを受ける。

【到達目標】

様々な職業，ならびに自らの適性と希望する職業に必要な能力等を把握するとともに，キャリア学習ポートフォリオ作成を通して自らのキャリアプランを自主的に進めることができる。

【キーワード】

職業，キャリアプラン，ライフプラン，適性把握，新聞，コンピテンシー，SPI 試験

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 いろいろな職業
- 3 経済新聞の読み方
- 4 適性・基礎学力把握演習 (1)
- 5 適性・基礎学力把握演習 (2)
- 6 適性・基礎学力把握演習 (3)
- 7 適性・基礎学力把握演習 (4) /レポート 1
- 8 キャリアプランとライフプラン
- 9 キャリアプラン体験講座(1)/事例
- 10 キャリアプラン体験講座(2)/作成実習
- 11 新聞から会社の実力を知る
- 12 新聞から会社の戦略を知る/レポート 2
- 13 各業種・職種のコンピテンシー
- 14 Web 版ポートフォリオにおけるコンピテンシーの設定
- 15 総括/2年次以降のキャリア教育科目の説明

【履修上の注意】

必ず出席し，レポート提出は期限厳守のこと。キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。

【成績評価】

到達目標の達成度を，2回分のレポートとキャリア学習ポートフォリオの進捗状況により評価する。各レポート評点（70 点満点）の平均点とポートフォリオ評点（30 点満点）の合計が 60 点以上を合格とする。

2 授業取組の概要

平成23年10月から工学部「キャリアプラン入門Ⅱ」が開講された。対象は総数606名で、3クラス（G1：208名、G2：200名、G3：198名）に分けて全15コマを実施した。このうち、3コマについての授業の様子を抜粋して紹介する。

第2回 いろいろな職業（業種と職種）

田中特任講師により、業種・職種に関する講義があった。

まず、企業研究では、経営形態により分類されている「公法人」と私法人の違いや、私法人のうち営利目的の代表である「株式会社」の仕組みについての講義が行われた。続いて、「職種・業種」を理解するために、職種とは何か、どのような職種が存在するのか、さまざまな職種とその内容についての説明が行われた。続いて業界研究のための主要31業種を対象とした各業種の特徴・動向の説明が行われ、各学科に関連する業種についてはより詳細な説明があった。



写真1 いろいろな職業（業種と職種）

第4回～第7回 適性・基礎学力把握演習

第4回と第7回では、将来多くの学生が採用試験で体験するSPI模擬試験を行い、結果の分析・解説を実施した。

5回と6回では株コードの夏目講師により、「自己分析」の講義が行われた。新規大学生のうち、1年目で7人に1人、3年目で3人に一人が辞めてしまう現実がある。背景には、自分の強みや弱みをはじめとする「自己分析」が十分に行われていないなどの要因がある。ワークシートを多用し改めて自分自身を見つめなおす内容の授業であったが、将来の職業を考えるうえで自己分析の大切さを実感できる授業でもあった。



写真2 自己分析

第12回 新聞から会社の戦略を知る

日経MP株小嶋講師により、新聞からどのようにすれば会社の戦略を読み取ることができるのか、当日の日経新聞を利用して具体的な事例をあげながらの授業であった。講師は元日程新聞経済部の編集デスク出身で、経済記者として多くの企業を取材した経験がある。グローバル化の中でそれぞれの企業がどのような戦略で生き残りを賭けているか、さらにこれまで培った技術を生かしどのような新規事業への転換を目指しているかなど、学生にとって将来の職業選択に役立つ内容の授業であった。



写真3 新聞から会社の戦略を知る

5) 後期 総合科学部「情報と職業」

1 シラバス・授業内容

【学部】 総合科学部

【科目名】 情報と職業

【担当教員】 吉田敦也

【開講時間】 平成 23 年度後期，水曜日 1・2 講時（8：40～10：10）

【受講者数】 109 名（2 年次生 92 名，3 年次生 16 名，4 年次生 1 名）

【授業計画】

- 1 情報システムの概略
- 2 情報システムの歴史
- 3 情報システムの未来
- 4 情報技術と社会システム
- 5 情報化のビジネスへの影響
- 6 ネット社会と企業経営
- 7 地域情報化の事例研究 1 徳島・彩り事業
- 8 地域情報化の事例研究 2 島根・Ruby City MATSUE プロジェクト
- 9 電子商取引とインターネットビジネス
- 10 グループ発表 1 情報社会におけるビジネスのあり方について
- 11 情報化の雇用への影響
- 12 情報化の職業への影響
- 13 情報社会と組織変革
- 14 情報社会における働き方
- 15 グループ発表 2 情報社会における職業観について

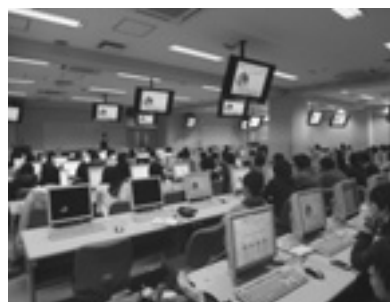


写真 1 授業の一コマ

【キーワード】

情報社会，ネット時代の職業，働く環境，ICT リテラシー，地域情報化

【授業概要】

情報システム，情報化のビジネスへの影響，情報技術の企業での利用状況，電子商取引，インターネットビジネス，情報産業，情報技術の人材育成，情報化の雇用と職業への影響などについて，受講生に主体的に調査，探求をしてもらい発表，議論をすることで理解を深める．情報システムの発展という観点から，計算機の発展の歴史について解説する．

【達成目標】

情報社会におけるビジネス，職業に関する基礎知識を学び，職業観，就労・労働の意識の形成，キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー，ICT 利活用力を身につける

【調書の申請内容】

情報システム，情報化のビジネスへの影響，情報技術の企業での利用状況，電子商取引，インターネットビジネス，情報産業，情報技術の人材育成，情報化の雇用と職業への影響などについて，受講生に主体的に調査，探求をしてもらい発表，議論をすることで理解を深める。なお，23 年度から到達目標に「キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー」を追加する予定である。

2 授業取組の内容

本授業では、以下の5つのことを実施した。

- ①情報システムに関する基礎知識（上記等を含む）と事例についての講義を行った。
- ②本授業専用のバーチャルクラスルーム「yclass」(<http://ct.ias.tokushima-u.ac.jp/yclass/>)、ならびに、公共的／一般的なクラウドサービス（主として Google）を用いて、インターネットを介した学習資料等の配布／共有、オンラインディスカッション、Web レポート公開などグループウェア型の授業運営を実施し、ICT リテラシーを実践的に身につけた。
- ③実習課題として、「四国、特に徳島に位置する大企業、中小企業について調べ、Google 地図上にマッピングし、授業内で共有する」調査ワークショップを行った。調査結果は、各自の Web サイトで相互に閲覧可能であった。
- ④以下の5回のゲスト講師によるゲスト講義を開催し、1)学生諸君の職業観の形成や就労意識の育成、2)商店経営のノウハウや顧客情報分析の方法、3) OSS(オープンソースソフトウェア)を使った自治体システムの最近の動向や県民サービスのあり方、4) 情報通信産業の現状や企業における研究/開発(R&D)、「研究」と「事業」の違い、5) 新聞社の概要、新聞記者の仕事、新聞記者になるための学習やスキル習得などについて講演してもらうとともに、学生との意見交換を行った。

1)ゲスト講義1：平成23年12月15日

テーマ：グリーンニューディールと徳島県庁

ゲスト講師：正本英紀氏（徳島県県民環境部環境総局環境首都課新環境戦略担当係長）

2)ゲスト講義2：平成23年12月22日

テーマ：100歳までを楽しく生きる化粧品店づくり

ゲスト講師：立本利博氏（有限会社ひかりや代表取締役 鳴門商工会議所副会頭）

3)ゲスト講義3：平成23年1月19日

テーマ：OSSで徳島県の夢を実現

ゲスト講師：阿部 篤氏／山住 健治氏（徳島県企画総務部情報システム課副課長／専門幹）

4)ゲスト講義4：平成23年1月26日

テーマ：ポータル事業とNTT レゾナント

ゲスト講師：青柳 真紀子氏（NTT レゾナント株式会社 エンジニア）

5)ゲスト講義5：平成23年2月2日

テーマ：職業としての新聞記者とは

ゲスト講師：正田 和也氏（読売新聞大阪本社 徳島支局長）

【取組の効果】

- ①学生諸君の情報システムについての知識が増大した
- ②学生諸君のICT活用（特に、クラウドシステムの利活用とグループ活動や学習への応用）のスキルが实际的に身に付いた。またそのことを実感した学生が多くいた。
- ③徳島や四国4県における企業の存在と実態を（事例的に）把握できた。
- ④ゲスト講師による講話や演習から、県庁、地元中小企業、大手情報産業、メディア（報道関係）の仕事について理解を深め、就業意欲や職業選択の方向性について考え方を固めることに寄与した。授業アンケート結果は、毎回ともに肯定的な回答が9割以上を占めた。

3 「巣立ちプログラム」授業評価アンケート結果

「巣立ちプログラム」のもとに展開された総合科学部・工学部開講の前期「キャリアプラン入門Ⅰ」および後期「キャリアプラン入門Ⅱ」の授業については、最終授業時に受講者（全1年生）を対象にキャリア教育に関する授業評価アンケートを実施した。以下は、その結果である。

平成23年度前期「キャリアプラン入門Ⅰ」 キャリア教育授業評価アンケート結果

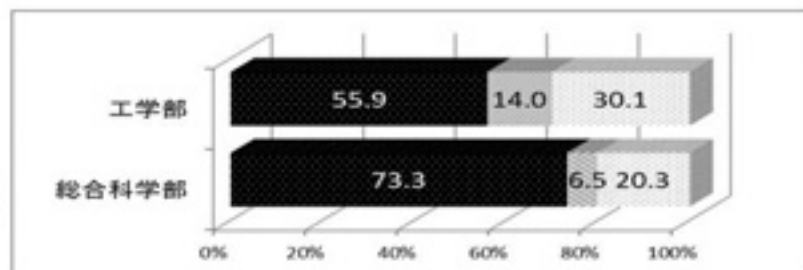
前期最終授業時に実施

総合科学部 232名(男子 39.7%)
工学部 594名(男子 89.9%)

■ 1(はい) ■ 2(いいえ) ■ 3(どちらともいえない)

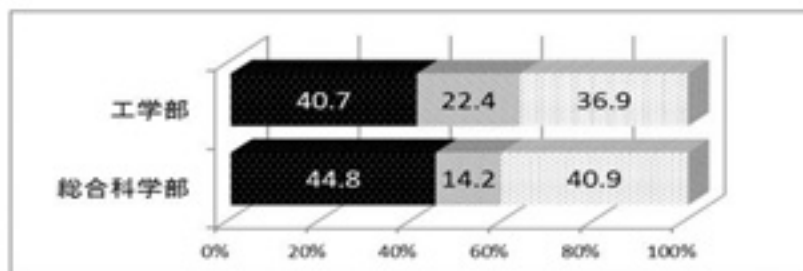
質問3

本授業は、あなたのキャリアデザインや進路(進学・就職)を考える上で役立ちましたか？



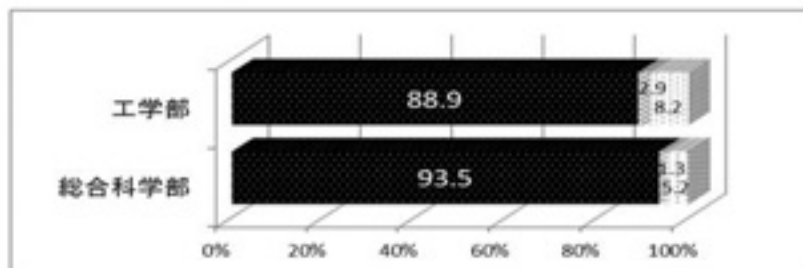
質問4

本授業を通じて、大学での学習目標が明確になりましたか？



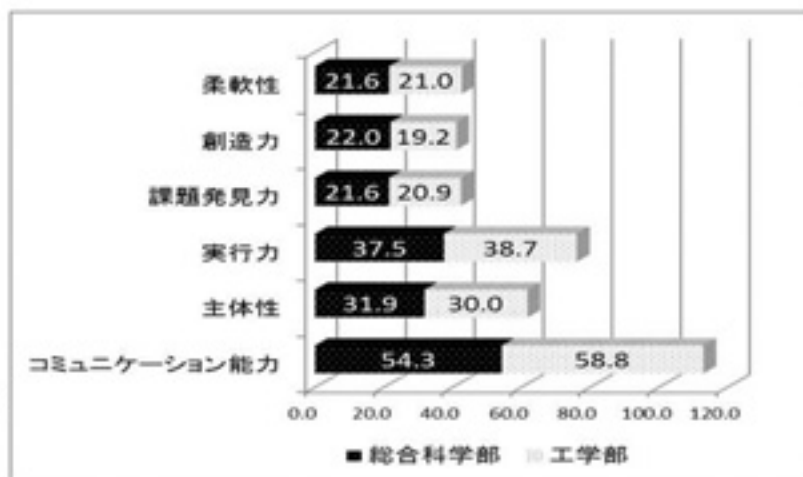
質問6

社会人基礎力(就業力)の向上は必要と考えますか？



質問7

今の自分に不足していると思われる社会人基礎力(就業力)を2つまで選んでください。



平成23年度後期「キャリアプラン入門Ⅱ」
キャリア教育授業評価アンケート結果

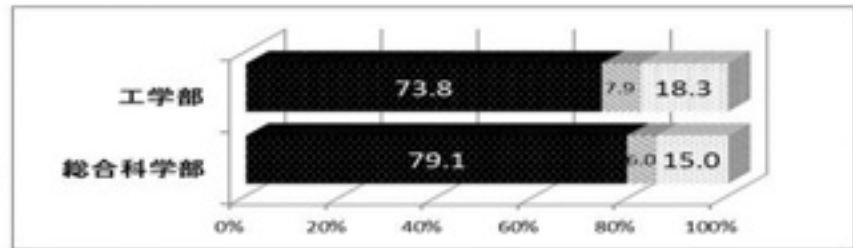
後期最終授業時に実施

総合科学部 236名(男子 37.8%)
工学部 534名(男子 89.7%)

■ 1 はい ■ 2 いいえ ※ 3 どちらともいえない

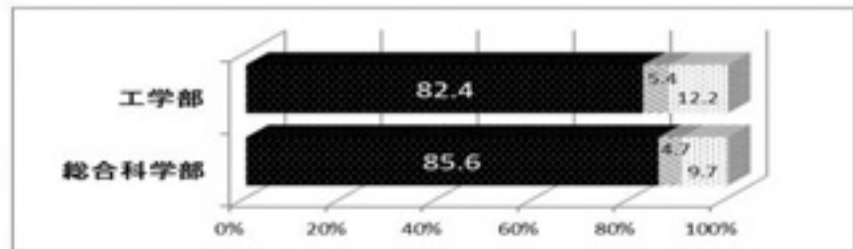
質問3

本授業を通じて、1年前期の「キャリアプラン入門Ⅰ」の受講時よりも、自分のキャリアデザインや社会人基礎力(就業力)に対する関心が高まった？



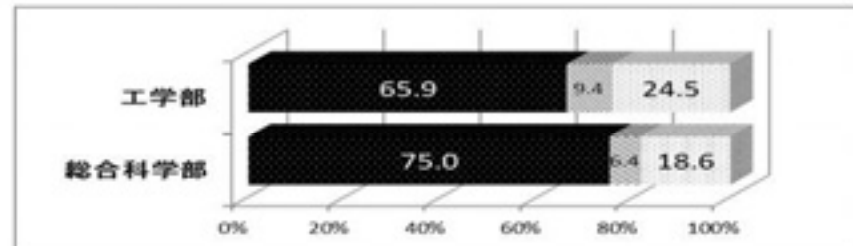
質問4

本授業では、適性検査(筆記試験)を通じて、自らの基礎学力や適性能力を客観的に評価しましたが、このような能力検査は必要と考えますか？



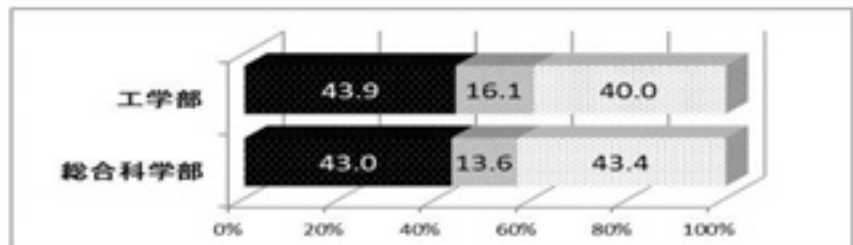
質問5

このような適性検査(筆記試験)を通じて、自分の強みや弱み(自己分析)は把握できましたか？



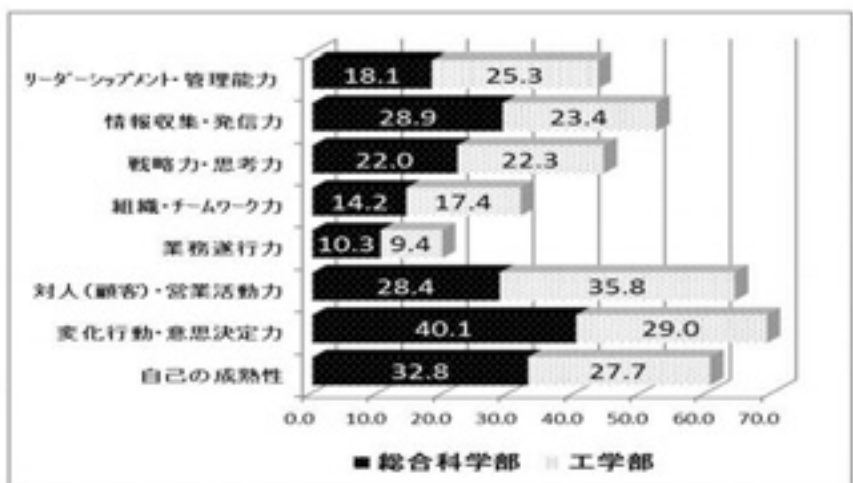
質問6

本授業を通じて、自分の職業観やキャリアデザインは醸成されましたか？



質問8

今の自分に不足していると思われる社会人基礎力(コンピテンシー)を2つまで選んでください。



平成23年度「キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱ」共通
キャリア教育授業評価アンケート結果

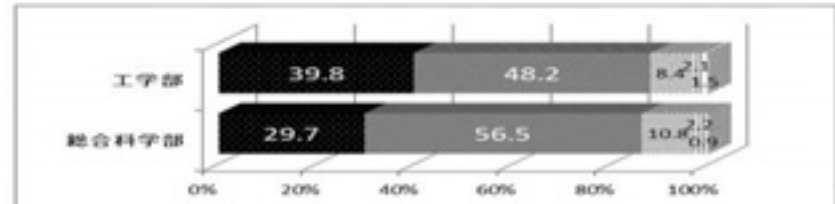
後期最終授業時に実施

総合科学部 236名(男子 37.8%)
工学部 534名(男子 89.7%)

■1 そう思う ■2 ややそう思う ■3 あまりそう思わない
■4 そう思わない ■5 わからない

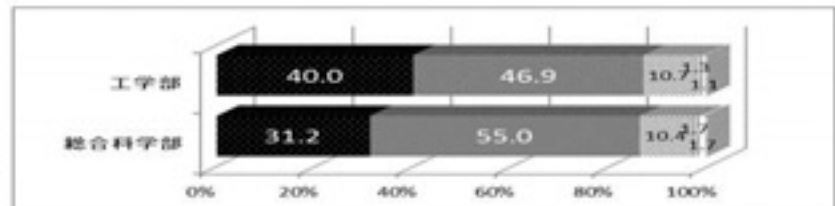
質問12

両授業を通じて、企業・自治体等の外部講師による講演は参考になりましたか？



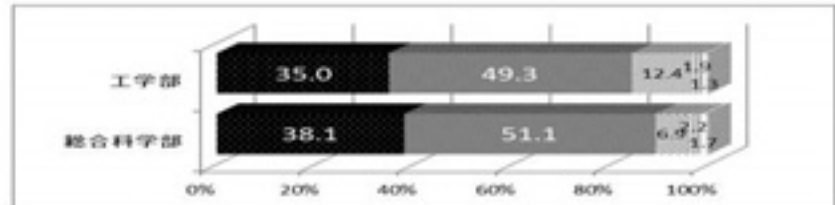
質問13

両授業を通じて、社会に対する関心が高まりましたか？



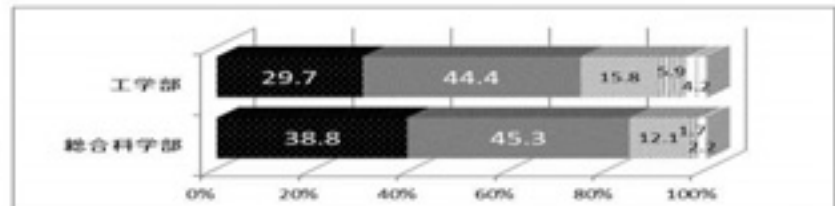
質問14

両授業を通じて、社会的、職業的に自立していかうとする自覚が高まりましたか？



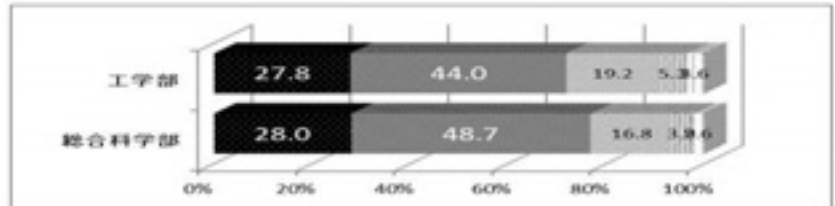
質問15

在学中に、社会体験やインターンシップに積極的に参加しようと思えますか？



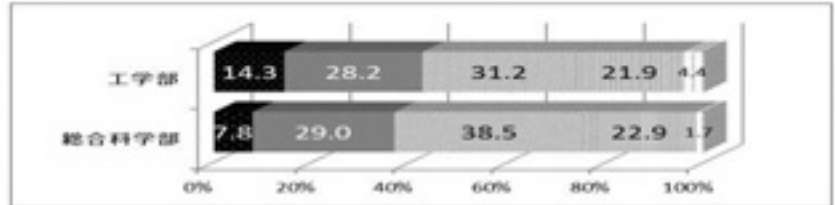
質問16

両授業を通じて、学習に対する意欲が高まりましたか？



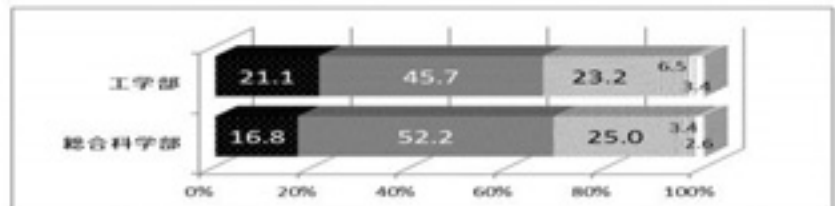
質問17

両授業を通じて、学習支援に関わる個別指導(学びの相談室など)やポートフォリオを積極的に活用するようになりましたか？



質問18

両授業を通じて、将来の進路に基づいた計画的な履修計画を行うようになりましたか？



4 第1回就業力育成シンポジウム報告

1 就業力育成シンポジウムの開催目的

平成22年度に文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」（就業力GP）に採択された徳島大学の「自らの就業力育成を促す巣立ちプログラム」に関する平成22・23年度の活動報告とともに、同GPに採択されている四国大学にも就職支援・キャリア教育等への取組みを報告していただき、両大学のキャリア教育の現状・成果と今後の課題を広く共有する。さらにそれらを踏まえて、企業・大学関係者ならびに学生をパネリストとするパネルディスカッションを実施し、社会人基礎力の育成方法ならびに大学におけるキャリア教育の方向性等について議論する。

2 実施要領（図1のシンポジウムポスター参照）

文部科学省
平成22年度大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)

国立大学法人 徳島大学
THE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA

自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム

第1回就業力育成シンポジウム

大学生の就業力育成は いかにあるべきか

日時／2012年3月2日(金)
13:00 開始(12:30開場)

場所／徳島大学工業会館2F
メモリアルホール

参加無料
(事前申込制)
参加ご希望の方は裏面の
参加申込書にご記入の上、
FAXにてご送付ください。

■プログラム

挨拶 13:00～13:10 徳島大学副学長 和田 眞

第1部 基調講演:「大学生が身につけておきたいこと」
13:10～13:50 県立広島大学総合教育センター教授 原田 淳 氏

第2部 就業力育成のためのキャリア教育
13:55～14:20 「徳島大学におけるキャリア教育への取組み」
徳島大学就職支援センター副センター長 平井 松午
徳島大学就業力GP 特任講師 田中 徳一
14:20～14:45 「四国大学におけるキャリア教育への取組み」
四国大学就職キャリア支援部キャリア教育支援課長 小島 信子

第3部 パネルディスカッション:「社会人基礎力と大学におけるキャリア教育」
15:00～16:15
パネリスト ① 原田 淳 氏 (県立広島大学総合教育センター教授)
② 竹中 淳二 氏 (徳島経済研究所 事務局長)
③ 眞鍋 厚 氏 (スタンシステム株式会社 専務執行役員)
④ 福井 清二 (四国大学就職キャリア支援部 部長)
⑤ 田中 徳一 (徳島大学就業力GP 特任講師)
⑥ 小西 利弘 (徳島大学大学院先端技術科学教育部2年)
⑦ 戸川 友希 (徳島大学総合科学部4年)

コーディネーター: 成行 義文 (徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 教授)

第4部 16:30～17:30 情報交換会

主催: 徳島大学就職支援センター 協賛: 四国大学就職キャリア支援部

問い合わせ 連絡先: 徳島大学就職支援センター・キャリア教育推進室
Tel & Fax : 088-656-9320 メールアドレス: ce_hosa@career.tokushima-u.ac.jp

図1 シンポジウム案内ポスター

3 シンポジウム風景

シンポジウムは、平井就職支援センター副センター長の開会挨拶に始まり、県立広島大学の原田教授による基調講演（第1部）、徳島大学ならびに四国大学におけるキャリア教育への取り組み状況報告（第2部）、さらには企業人・大学教員・現役学生の計7名をパネリストに迎えたパネルディスカッション（第3部）と進み、終始会場との一体感を保ちながら活発な議論が展開された。なお、第1～3部の参加者総数は約60名であった。また、第4部として意見交換会（第4部）には25名の参加があり、有意義な意見交換が成された。



写真1 シンポジウムのスナップ写真



写真2 パネルディスカッション（第3部）

4 参加者アンケート

本シンポジウムの参加者は計56名であった。その内、大学関係者は40名（内徳島大学以外9名）、企業関係者は12名、公務員・その他は4名であった。

参加者には受付時にアンケート用紙を配布し、終了時に回収した。回収率は約60%（除：運営スタッフ）である。

表1はアンケート設問毎の回答集計結果を示したものである。設問6の回答結果から分かるように、90%の参加者が本シンポジウムを有意義であったと感じており、大学のキャリア教育に対する関心の高さを示しているといえる。

また、自由記述（設問7～9）では、始まったばかりの「大学におけるキャリア教育」への高い期待が感じられる建設的なご意見を多数頂いた。今後、キャリア教育の推進・改善のために参考にしてゆく予定である。

表 1 アンケート集計結果

設問1)	回答者数	%
徳島市内	23	77%
徳島県内(市外)	3	10%
徳島県外(四国)	2	7%
徳島県外(関東)	2	7%
計	30	100%

設問2)	回答者数	%
大学教職員	16	53%
会社員	10	33%
公務員	1	3%
その他	3	10%
計	30	100%

設問3)	回答者数	%
男性	23	77%
女性	7	23%
計	30	100%

設問4)	回答者数	%
10代	0	0%
20代	2	6%
30代	3	10%
40代	7	23%
50代	11	35%
60代	7	23%
70代以上	1	3%
計	31	100%

設問5)	回答者数	%
徳島大学から	21	70%
四国大学から	2	7%
勤務先での紹介	4	13%
知人の紹介	1	3%
ポスター等	0	0%
新聞等の報道	1	3%
徳島大学のHP	1	3%
四国大学のHP	0	0%
その他	0	0%
計	30	100%

設問6)	回答者数	%
非常に有意義であった	16	53%
おおむね有意義であった	11	37%
多少とも参加した甲斐があった	3	10%
あまり参考にならなかった	0	0%
その他	0	0%
計	30	100%

No.	設問7)
1	原田先生の基調講演
2	パネルディスカッション
3	ポートフォリオシステム:学生自己評価システムの方式
4	すべて実りあるものでした
5	コンピテンシー、産学官による基礎力向上カリキュラム
6	各大学の取り組みの発表
7	学生の生の声
8	大学として力を入れてキャリア教育に取り組んでいく姿勢
9	大学でのキャリア教育の取組の成果評価の判定
10	これまでの大学における教育の不十分さ

No.	設問8)
1	GPを獲得するにあたって立てた計画を修正を加えつつ着実に実施していくこと。
2	原田先生の講演内容を是非学生に聞かせてください(企業人の立場からもお願いします)。
3	学生たち自分自身が必要だと気づくことが出来れば身につけていくことは容易だと考えています。その気づきや意欲をもってもらう最初のアプローチが難しく大切であると思います。
4	支援プログラムを活用しない(する気がない)学生に対するフォローについても思案・検討していく必要があると感じました。
5	思考する力。実践する力。社会に役立つために。
6	普段の授業の中でできる工夫をすることが基本
7	大学側と企業側の格差のある点を探ってみてください。
8	情熱を持って時にはしかる事も必要かと思えます。
9	求人先の解説と紹介
10	学生と社会人のギャップによりメンタル面で落ち込んでしまう人が多い。セルフケアについての教育もお願いしたい。
11	学生間が相互に刺激しながら学ぶ機会が減少しているように感じるので、これをカバーできるシステム作りをしてはどうか。

対象	設問9)
徳島大学	<ul style="list-style-type: none"> 今後とも成果の発信をお願いします。 インターンシップでくる学生はみなさん消極的。 学生による自ら企業を訪問する活動に賛成です。
四国大学	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオの中身、諸事業のポリシー・体制・方向性についてももう少し話が聞きたかった。 インターンシップでくる学生はみなさん消極的。 一歩前に踏み出す試み、続けてください。

5 講演資料概要

本シンポジウムにおける下記1)～3)の講演スライドを図3～5に示す。紙面の関係ですべてのスライドが縮小版となっているが、講演・報告の概要は把握できると思われる。なお、四国大学の活動報告については割愛する。

- 1) 活動報告（徳島大学，平井・田中）・・・図3
- 2) 基調講演（県立広島大学 原田淳教授）・・・図4
- 3) パネルディスカッション趣旨説明（徳島大学，成行）・・・図5

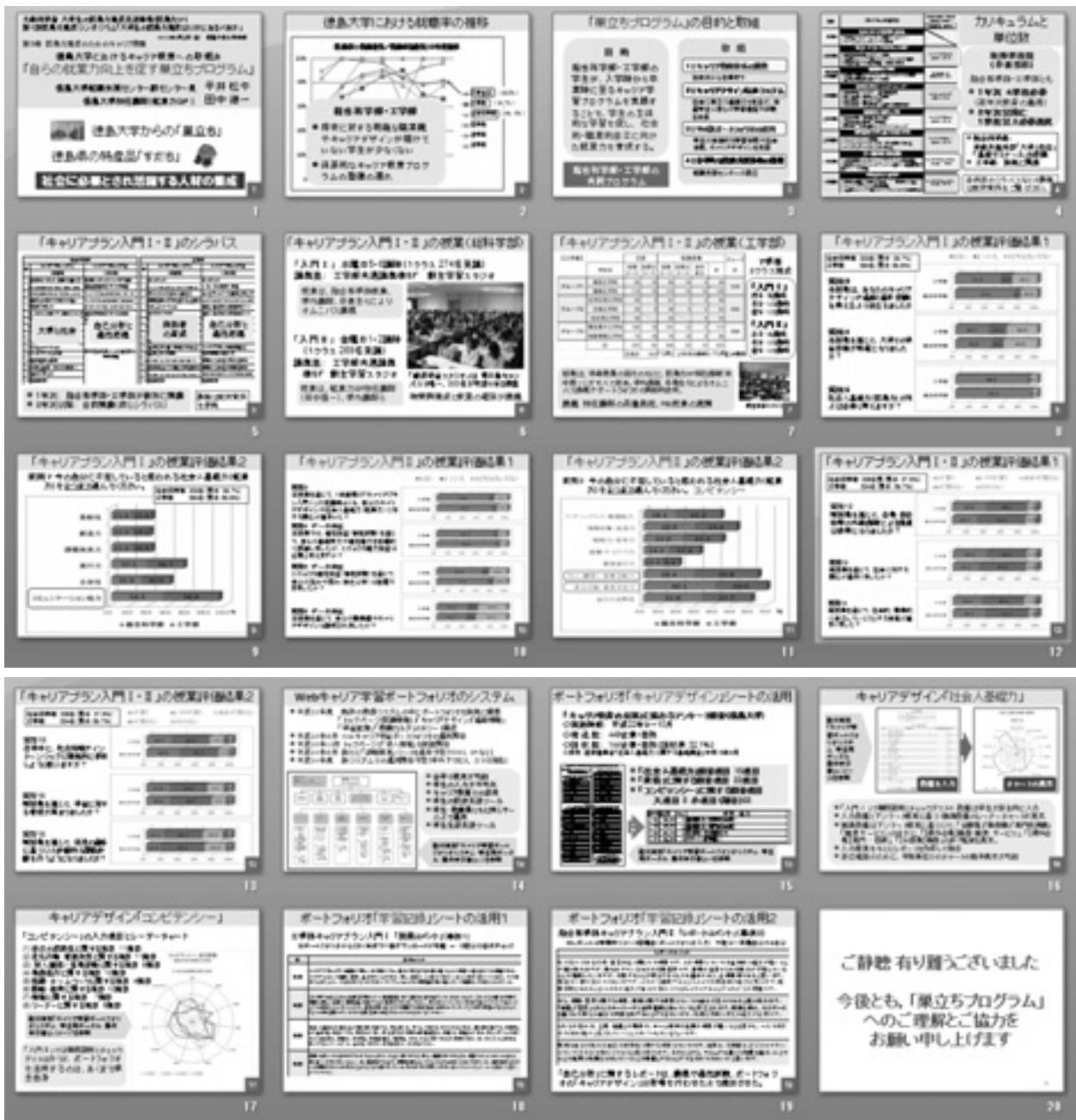


図3 徳島大学におけるキャリア教育への取り組み（平井・田中）



図4 基調講演「大学生が身につけておきたいこと」(県立広島大学 原田淳教授)



図5 社会人基礎力と大学におけるキャリア教育（成行）

6 シンポジウム総括

本学の「自らの就業力育成を促す巣立ちプログラム」が文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」（就業力 GP）に採択された直後の平成 22 年度後期に、総合科学部と工学部において具体的な「4 年一貫キャリア教育カリキュラム」策定に着手し、平成 23 年度の両学部入学生を対象として、「巣立ちプログラム」にもとづくキャリア教育を開始した。本シンポジウムは、この 2 年間の事業の進捗状況と成果を検証するとともに、黎明期にある「大学生のキャリア教育」のあり方について広く意見交換をするために、四国大学の協賛を得て実施されたものである。

シンポジウムでは、県立広島大学キャリアセンターの原田淳教授に基調講演を頂いたが、アンケート回答（設問 7）～8）、自由記述）にもあるように、原田先生の講演は多くの参加者の共感を呼ぶ素晴らしいものであった。また両大学の取り組み内容では、特にポートフォリオへの関心が高かった。パネルディスカッションでは、フロアも一体となり、「社会人基礎力」の必要性・教育方法等について熱心な討論が成されるとともに、就職が内定している現役学生からは就活経験にもとづく「キャリア教育への提言」もなされた。

本シンポジウムでの議論・提言を今後のキャリア教育の推進・改善のために活かしていくことが重要である。

5 平成23年度事業外部評価委員会報告

1 「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」外部評価委員会議事要録

1) 日 時 平成24年3月3日(土) 10時00分～13時00分

2) 場 所 共通教育5号館会議室

3) 出席者

委員長 県立広島大学総合教育センター教授 原田 淳

委員 総合科学部渭水会会長 佐藤 勉

総合科学部振興会副会長 木内 晃

工学部後援会会長 港 忠徳

工学部工業会理事長 美馬 敬正

徳島県商工会議所副会頭 本久ミドリ

本学 就職支援センター副センター長・大学院ソシオ・アーツ・アント[®]・サイエンス研究部教授 平井 松午

大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部教授 成行 義文

就職支援センター 特任講師 田中 徳一

学生生活支援課長 川上 哲

学生生活支援課課長補佐 松尾 誠治

学生生活支援課長の進行により、まず平井就職支援センター副センター長から開会挨拶がなされ、続いて座席表により出席者の確認がなされた。

事務局から配付資料の確認がなされた後、原田委員長の進行により議事に入った。

4) 議 題

① 第1回外部評価委員会議事要録の確認及び平成22年度補助事業講評結果について

委員長から、第1回外部評価委員会議事要録及び平成22年度補助事業講評結果について確認依頼があった。

続いて、平井就職支援副センター長から、第1回委員会で未実施を指摘されていた本学卒業生の採用状況・採用満足度に関する企業アンケートを、議題1資料参考資料のとおり昨年末に実施した旨の説明があり、了承された。

② 平成23年度補助事業実施計画に基づく業務の進捗状況について

平井就職支援副センター長、成行教授及び田中特任講師から、文部科学省に提出している事業調書に記載されている実施計画に対応した議題2資料1から議題2資料11によ



写真2 第2回外部評価委員会

り、平成 23 年度補助事業の取組内容、進捗状況及び成果について説明があり、質疑応答、意見交換がなされた。

③ 評価並びに講評結果について

委員長から各委員に対して、議題 3 資料により委員間で評価について意見交換の上、各評価項目に対する評価を行うように要請があり、本学関係者は退席した上で、評価が行われた。

評価終了後、委員長から、評価いただいた結果については、事務局で集計の上、後日受け取った後、各委員と検討の上、講評及び報告したい旨説明があり了承された。

2 「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」外部評価委員の評価結果

1) 評価結果 評価点は、「計画どおり進んでいる」を 5, 「進捗がみられず大いに改善を要する」を 1 とする 5 段階評価。

① 特任教員・非常勤職員の採用	4.5
② 「巣立ちプログラム」1年次向け「キャリアプラン入門Ⅰ」の開講	4.5
③ Web 版ポートフォリオの立ち上げ	4.2
④ 授業評価アンケート（キャリアプラン入門Ⅰ）の実施	4.3
⑤ Web 版ポートフォリオのチェック・指導（キャリアプラン入門Ⅰ学習記録）	4.0
⑥ 「巣立ちプログラム」1年次向け「キャリアプラン入門Ⅱ」の開講	4.5
⑦ 授業評価アンケート（キャリアプラン入門Ⅱ）の実施	4.3
⑧ Web 版ポートフォリオのチェック・指導（キャリアプラン入門Ⅱ学習記録）	4.0
⑨ 就業力評価アンケート（4年次対象）の実施	4.2
⑩ 就業力検証シンポジウムならびに外部評価委員会の開催	4.3
⑪ 取組成果報告書の作成	3.5

総合評価（平均） 4.2

2) 委員講評・コメント

- ・ 2年目の実施計画に従い順調に業務が実施され、当初に設定した目標に向い成果が少しずつ表れてきている。
- ・ 調書で示した目的をおおむね達成できているように見受けられる。
- ・ 総合科学部・工学部以外のキャリア教育についても良い実践がなされると良いと思います。
- ・ 大学の教育（巣立ちプログラム）としては非常に良い事だと思う。学生もストレスを抱えながら卒業まで頑張っていくと思うが、乗り越える力を作ってほしい。
- ・ 努力のあとが良く見えました。今後の卒業生に対するフォローも含めて継続高度化をお願いします。



社会的自立・職業的自立を目指す 「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」

前就職委員会委員長 / 徳島大学就職支援センター副センター長 平井松午



本年(平成23年)4月に文部科学省は大学設置基準を改正し、大学に対して「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」を培う方策を義務づけました。その目的は、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指し、豊かな人間形成と人生設計に資することにあります(中央教育審議会、平成21年12月15日)。

大学生にキャリア教育が必要なのかと思われるかもしれませんが、大学進学率が50%を超えて多様な学生が入学しているなか、社会人・職業人としての基礎能力や、産業構造等の変化に対応できる柔軟な専門性と創造性の高い人材の育成が大学に要請されていることも確かです。そこに求められるのは、単なる職業教育ではなく、社会人としての基礎力を有し、社会的自立・職業的自立が可能な人材育成です。

文部科学省はこれに先立ち、平成22年度に大学生の就業力育成支援事業を募集し、徳島大学では総合科学部と工学部が共同申請した「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」が採択(申請441件/採択180件)されたことにより、総合科学部では本年4月より新1年生を対象に同プログラムを開始しました。

「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」の主な取組は、1) 4年一貫のキャリア教育の実践、2) 学生の主体的な取組を促すWeb版ポートフォリオの活用にあります。

入学した1年生は、必修科目として「キャリアプラン入門Ⅰ」および「キャリアプラン入門Ⅱ」の授業科目を受けることになります。前者は大学と社会の関わり、後者はキャリアデザイン・適性把握をテーマとする授業で、2年生以上で「キャリアプランⅠ・Ⅱ・Ⅲ」および「短期インターンシップ」という授業科目の中から学生は1単位以上を履修することになります。それらの科目では、職業意識の形成と基本技能の修得、就職活動の意味と方法、学外実習、就活体験の伝承などがテーマとなっていま

す。「巣立ちプログラム」の詳細については下記のサイトをご覧ください。

また、履修登録などで学生が利用している教務システムの中に、新たにWeb版キャリア学習プラットフォームを立ち上げました。これは、いわゆるキャリアデザインノートのWeb版で、巣立ちプログラム授業科目用の「学習記録」ページや、学生が自らの社会人基礎力やコンピテンシー(職場で求められる行動特性)を判定できる「キャリアデザイン」ページ、将来の就職活動のための「課外活動記録」ページや「進路・就職情報」ページなどを備えています。学生が就職活動に向けて必要な情報を登録・確認し上手に活用してほしいと願っていますが、その利用は学生の主体性に委ねられています。

平成20年9月のリーマンショック以降、日本経済は大きく後退し大学生の雇用環境は厳しさを増しました。全国大学生の就職率は平成20年3月卒業生の96.9%をピークに、95.7%、91.8%と低下し、今年(平成23年)3月の卒業生は91.1%でした(厚労省発表)。総合科学部卒業生についても、同時期に96.8%、94.5%、91.3%と推移しました。就職対策強化により平成22年度卒業生の就職率は94.6%と持ち直しましたが、世界経済の不安定さや東日本大震災の影響もあって雇用環境は依然厳しく、採用側の厳選採用は変わるわけではありません。それゆえ、在学生には、自分の将来設計や就職情勢を見据えて大学での学習に努めるとともに有意義な学生生活を送ってほしく、「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」がそうした面で後押しできればと願っています。

徳島大学では就職支援センター等による就職活動支援を強化するとともに、総合科学部でも独自に就職相談室を設けてキャリアコーディネーターを配置するなど、学生の就職支援に努めています。渭水会をはじめ卒業生の皆様には、「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」についてご理解を賜るとともに、今後とも引き続き、後輩学生たちの就職活動等に対してさらなるご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

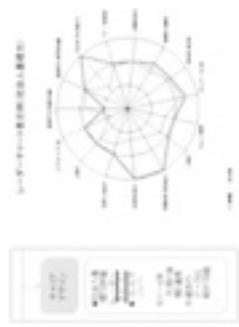
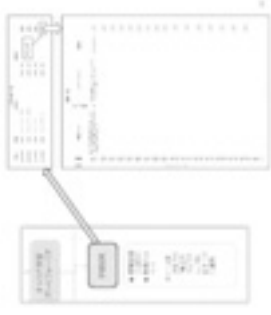
◇「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」の紹介サイト◇

<http://www.tokushima-u.ac.jp/campus/education/shushokuryokuikuseishien.html>

<p>【基調講演 14:05~15:10】</p> <p>徳島大学におけるキャリア教育について</p> <p>徳島大学大学院グローバル・リサーチセンター 工学部教育センター 成行義文</p>	<p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 近年における大学生の就職(内定)率の推移 徳島大学各学部の平成22年度の就職率 徳島大学における就職率の推移 大学生の就業力育成支援事業 自らの就業力向上を促す奨励プログラム 平成23年度のキャリア教育科目 今後の課題 	<p>3. 近年における大学生の就職(内定)率の推移</p>																									
<p>2. 徳島大学各学部の平成22年度の就職率</p> <p>2-1. 徳島大学の学部構成</p>	<p>2-2. 各学部の平成22年度の就職率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>工学部</th> <th>理学部</th> <th>教育学部</th> <th>経営学部</th> <th>文学部</th> <th>健康学部</th> <th>看護学部</th> <th>法学部</th> <th>医学部</th> <th>歯学部</th> <th>獣医学部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職率</td> <td>85.0%</td> <td>70.0%</td> <td>75.0%</td> <td>70.0%</td> <td>85.0%</td> <td>80.0%</td> <td>85.0%</td> <td>85.0%</td> <td>85.0%</td> <td>85.0%</td> <td>85.0%</td> </tr> </tbody> </table>	学部	工学部	理学部	教育学部	経営学部	文学部	健康学部	看護学部	法学部	医学部	歯学部	獣医学部	就職率	85.0%	70.0%	75.0%	70.0%	85.0%	80.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	<p>3. 徳島大学における就職率の推移</p> <p>3-1. 徳島大学における就職率の推移(専修)</p>	<p>3-2. 工学部における就職率の推移(員)</p>
学部	工学部	理学部	教育学部	経営学部	文学部	健康学部	看護学部	法学部	医学部	歯学部	獣医学部																
就職率	85.0%	70.0%	75.0%	70.0%	85.0%	80.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%	85.0%																
<p>4. 大学生の就業力育成支援事業</p> <p>大学側におけるキャリア教育の徹底化</p> <p>平成22年7月25日に大学設置基準を改正し、設置区域内の各大学に「社会的・職業的自立に資する就職準備(キャリアガイダンス)」を必修化。(平成23年4月1日施行)</p>	<p>4. 大学生の就業力育成支援事業</p> <p>実習科等による「大学生のキャリア教育推進事業」の公表</p>	<p>5. 工学部における就職率の推移</p> <p>工学部就職内定率</p>	<p>5. 工学部における就職率の推移</p>																								
<p>4. 大学生の就業力育成支援事業</p> <p>大学側におけるキャリア教育の徹底化</p> <p>平成22年7月25日に大学設置基準を改正し、設置区域内の各大学に「社会的・職業的自立に資する就職準備(キャリアガイダンス)」を必修化。(平成23年4月1日施行)</p> <p>教育課程内を必修化して、学生が授業内・履修科目によって就業力アップの機会を増やすことにより、キャリア教育の充実、就職支援体制の構築が急務。</p>	<p>5. 自らの就業力向上を促す奨励プログラム</p> <p>13年度キャリア教育推進事業の概要</p> <p>13年度キャリア教育推進事業の概要</p> <p>13年度キャリア教育推進事業の概要</p> <p>13年度キャリア教育推進事業の概要</p>	<p>4. 大学生の就業力育成支援事業</p> <p>実習科等による「大学生のキャリア教育推進事業」の公表</p>	<p>5. 自らの就業力向上を促す奨励プログラム</p> <p>13年度キャリア教育推進事業の概要</p> <p>13年度キャリア教育推進事業の概要</p> <p>13年度キャリア教育推進事業の概要</p> <p>13年度キャリア教育推進事業の概要</p>																								

1) 1年次キャリア教育推進計画

学年	1年次	2年次	3年次	4年次
1年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
2年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
3年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
4年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得



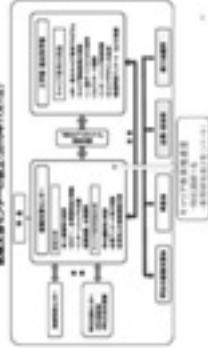
初年度キャリア教育科目の授業計画

科目名	担当教員	単位数	履修人数	履修率
キャリア教育	山本 浩一	1	100	100%
キャリア教育	山本 浩一	1	100	100%
キャリア教育	山本 浩一	1	100	100%
キャリア教育	山本 浩一	1	100	100%
キャリア教育	山本 浩一	1	100	100%

学年	1年次	2年次	3年次	4年次
1年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
2年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
3年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
4年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得



4) 全学的な支援体制の基盤と強化



キャリアプラン入門アンケート結果(抜粋)

項目	回答数	割合
キャリア教育の重要性	100	100%
キャリア教育の必要性	100	100%
キャリア教育の有用性	100	100%
キャリア教育の興味	100	100%
キャリア教育の満足度	100	100%

2) 2年次キャリア教育推進計画

学年	1年次	2年次	3年次	4年次
1年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
2年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
3年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
4年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得



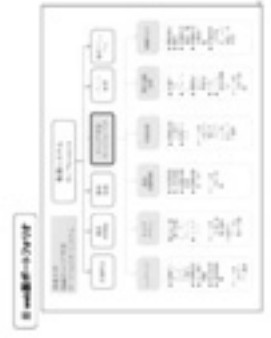
6. 平成23年度(旧年度)のキャリア教育科目

受講学生数とグループ分け

学年	1年次	2年次	3年次	4年次
1年次	100	100	100	100
2年次	100	100	100	100
3年次	100	100	100	100
4年次	100	100	100	100

7) 今後の課題

課題	対応策
キャリア教育推進計画の進捗	キャリア教育推進計画の進捗
キャリア教育の重要性	キャリア教育の重要性
キャリア教育の必要性	キャリア教育の必要性
キャリア教育の有用性	キャリア教育の有用性
キャリア教育の興味	キャリア教育の興味
キャリア教育の満足度	キャリア教育の満足度

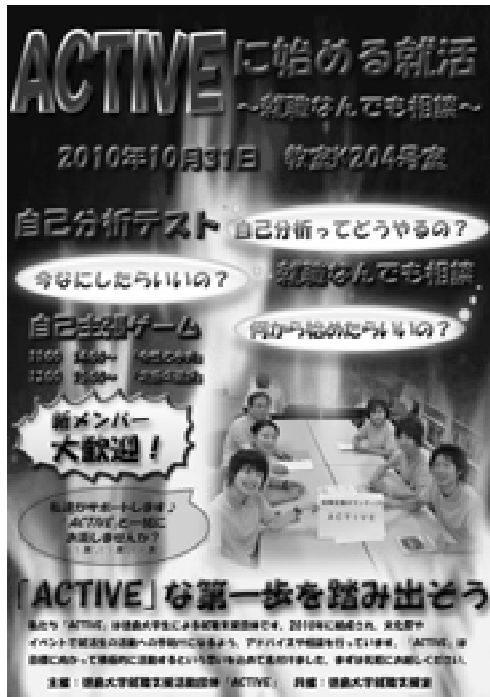


3) 3年次キャリア教育推進計画

学年	1年次	2年次	3年次	4年次
1年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
2年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
3年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得
4年次	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得	キャリア教育の基礎知識の習得



- 5) 今後の課題
- 1) キャリア教育推進計画の進捗
 - 2) 各学科の協力体制の構築
 - 3) 大人数クラスにおける効果的なグループ学習手法の開発
 - 4) 体験型授業(本人体験型授業の実施)
 - 5) 社会人基礎能力に合わせたコンテンツ等の定期的な更新
 - 6) 文部科学省の支援終了後の継続性



「就職難をフツ飛ばせ!!!」
 (学生による就職支援企画)
 就職活動って何から始めよう?
 日時:平成23年11月4日 12:20~17:00
 場所:総合科学部1号館北側301・302教室
最強の就活イベント
みんなと差をつけよう!!!

一部(12:20~14:20) **絶対に役立つ講演**
 1. 公益財団法人徳島経済開発推進事務局長 竹中洋二氏
 2. 丸二産業グループ 総務部長 山本健児氏

二部(14:30~16:00)
 様々な業界から内定を勝ち取った学生によるプレゼン発表
 前半14:30~ ①スポーツ②メーカー(化学系)
 後半15:15~ ③製薬④ITサービス⑤銀行等の職員
 ※発表の内定者たちも1人15分(プレゼン時間含む)で計1人の発表者

就職活動なんでも相談室(16:00~17:00)
 就職支援センターで大先生の前原 山野先生のアドバイスが聞ける!!

※途中からでも入室可能なのは是非是非!! 就職支援はこちら
 徳島大学就職支援センター(総合科学部1号館北側301・302教室)
 電話:087-2386-1236(受付時間:平日9:00~17:00)
 メール:career@career.tokushima-u.ac.jp

学生の就職支援組織 ACTIVE による活動の紹介

「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」推進スタッフ

就職支援センター・センター長 和田 眞 副学長／教育担当理事

総合科学部事業担当 平井 松午 就職支援センター・副センター長／大学院ソシオ・アーツ・
 アンド・サイエンス研究部教授

工学部事業担当 成行 義文 大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授

キャリア教育担当 田中 徳一 特任講師

学務部学務部長 木之下 英二

学務部学生生活支援課長 川上 哲

学務部学生生活支援課課長補佐 松尾 誠治

キャリア教育支援担当 近藤 和美 技術補佐員

平成24年3月31日

文部科学省 大学生の就業力育成支援事業

自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム

—社会における確かな「居場所と出番」を見つける力を培うキャリア教育—

平成22・23年度報告書

編集・発行: 徳島大学就職支援センター・キャリア教育推進室

住所: 〒770-8502 徳島市南常三島町 1-1

電話番号・ファックス番号: 088-656-9320

メールアドレス: ce_hosa@career.tokushima-u.ac.jp



平成24年3月31日

文部科学省 大学生の就業力育成支援事業

自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム

—社会における確かな「居場所と出番」を見つける力を培うキャリア教育—

平成22・23年度 成果報告書

編集・発行：徳島大学就職支援センター・キャリア教育推進室